

海外子女教育

3

2023 No.601

特集1

世界を広げる

翻訳家たち

——海外で読む翻訳文学

今月の顔

山口 翔さん

(株)インターホールディングス
取締役兼CBO

受け入れ校紹介

IPU・環太平洋大学
(International Pacific University)

海外校シリーズ

チカラン日本人学校
パリ補習授業校

特集2

Davos Next 2022とは

何だったのか？

記者が見つめた1年半



大学
進学先

(2022年3月卒業生 大学進学実績)

クイーンズランド工科大学、モナッシュ大学、サセックス大学、大阪大学、筑波大学、北海道大学、九州大学、神戸大学、長崎大学医学部、横浜市立大学、千葉大学、早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、国際基督教大学、青山学院大学、立教大学、明治大学、中央大学、法政大学、津田塾大学、学習院大学、神戸市外国語大学、都留文科大学、名古屋市立大学、岡山大学、東京海洋大学、旭川医科大学医学部、茨城大学、静岡大学、宮城大学、島根大学、山口大学、愛媛大学、富山大学、高知大学、大阪公立大学、大阪教育大学、名古屋工業大学、弘前大学、小樽商科大学、高知工科大学、公立鳥取環境大学、北九州市立大学、芸術文化観光専門職大学、長崎県立大学、兵庫教育大学、鹿児島大学、日本大学、東洋大学、駒澤大学、専修大学、南山大学、同志社大学、立命館大学、関西学院大学、関西大学、同志社女子大学、京都女子大学 その他多数

Be Ambitious

クラークなら英語を強みに才能が開花する

クラークの国際系コース・専攻なら圧倒的な英語授業数とディスカッション中心の実践的な授業、そしてレベル別クラス編成という最高の環境で、更に英語力を伸ばせます。



1 全日制高校の3～4倍!
週最大20コマの
実践的英語授業!

2 採用率2%!
質の高いベテランの
ネイティブ教員陣。

3 海外大学との連携授業、
キャリア体験、
国際交流の機会も!

4 英語以外の多彩な
コース別授業も開講
※キャンパスにより設置コースは異なります



夢・挑戦・達成

学校法人
創志学園

クラーク記念国際高等学校

お問い合わせ
資料請求



0120-833-350

www.clark.ed.jp

クラーク高校

検索



スイス公文学園高等部
Kumon Leysin Academy of Switzerland

スイスで学ぶ ボーディングスクールで学ぶ Gateway to the World

スイス公文学園高等部 (KLAS/文部科学省認定の在外教育施設) はアルプスの南斜面に位置する町・レザンにあるボーディングスクール※です。

1990年の開校から今日まで、世界への扉を開こうとする日本の若者たちの学びを応援し続けています。生徒たちは、スイスを拠点にヨーロッパの多様な文化に触れたり、感じたりしながら、世界の今、未来を学びます。

※Boarding School : 全寮制の寄宿学校



PHOTO : スイス公文学園高等部

自立と社会性が身につきます



KLASは全生徒が寮生活を送ります。親元を離れ、共に生活する日常を通して、他者理解、自己責任と自治の精神などを身につけることで、人間力を高めしていきます。また、KLASの教職員がきめ細やかにサポートすることで、生徒の成長を手助けします。

実践的な英語力がみがけます



KLAS校内の公用語は英語です。授業 (一部を除く)、連絡、学校行事、地域社会との交流、そのすべてを英語で行います。卒業・進学後、英語圏の大学で通用する高度な英語力を育成していきます。フランス語の授業もあり、フランス語圏のレザンでは、日々の生活の中で学んだフランス語を実践することもできます。

世界の舞台を体験し、学び、語り合う



世界の学生と交流し、学ぶ機会を提供します。例えば、海外の学校との交換プログラム、模擬国連で世界の高校生たちとの討論、音楽やスポーツを通じた交流、英語圏の大学で学ぶプログラム、国際ボランティアなど、さまざまな活動に参加することで、たくさんの経験と知識、コミュニケーション力を獲得します。

Live+Online 学校説明会

- ライブ、オンラインいずれも事前申込みが必要です。
- オンライン参加は全ての回で参加いただけます。
- 開催時間はいずれも14:00~15:30

東京 : 4/9⑩、6/18⑩、7/15⑩
8/27⑩、9/10⑩、10/15⑩
11/19⑩、12/2⑩

大阪 : 5/21⑩、8/19⑩、10/29⑩

名古屋 : 4/16⑩、9/24⑩

福岡 : 9/3⑩

Online 学校見学会

施設や授業の様子などをライブ中継で見学します。

4/13(木)、7/17(月・祝)、9/29(金)

※参加申込は各回実施2日前までにお申し込みください。

【転編入試験】を実施します

7月の新学期からKLASで学ぶチャンスです。

5/14⑩ に実施します。(試験会場: 横浜)

※出願方法等についてはお問い合わせください。



学校説明会の
詳細・お申込み



KLAS
公式サイト

小6・中3 生徒 対象

海外からも、首都圏の難関校にチャレンジできる

早稲田アカデミー オンライン校

ハイレベルの
志望校別対策



双方向Web授業

「海外からも、首都圏の難関校受験にチャレンジしたい…」

そんな方に向けた待望のサービスをスタートします。

これまでに培った「双方向Web授業」の経験とノウハウを結集して、
対面と変わらぬ志望校別対策授業をご自宅で。

講座受講生滞在国内(例)

アメリカ・オーストラリア・シンガポール・タイ・中国・マレーシア・ドイツ

詳細・お申込は
こちら



特長 1

対面と同じように、早稲田アカデミーが誇るトップ講師の「完全志望校別対策講座」を、早稲田アカオリジナルテキストで受講できる。

特長 2

一方通行では伝わらない“熱”を、まるで教室で授業を受けているかのような臨場感を、「双方向Web授業」にて。

特長 3

早稲田アカデミーオリジナルシステム「早稲田アカデミーEAST」を使い添削課題にも対応し、欠席した場合や復習用としてオンデマンド授業映像をご用意。

早稲田アカデミー 海外校 (8校舎)

詳細はこちら11か国24都市において
早稲田アカデミーの教育ネットワークを広げています。



海外校

ロンドン校【イギリス】
ニューヨーク校【アメリカ】
シンガポール校【シンガポール】
インター校【シンガポール】
7区校【ベトナム】
ビンタン校【ベトナム】
台北校【台湾】
クアラルンプール校【マレーシア】

その他世界各地に
海外提携塾があります。

小学生・中学生 対象

Web 帰国生対象 入試報告会

帰国生入試をお考えの保護者の方を対象に、最新の入試動向や対策について、早稲田アカデミー国際部よりお伝えします。

詳細はこちら



帰国生専門

λόγος
LOGOS AKADEMEIA

小4～小6 対象

帰国生専門校舎
LOGOS AKADEMEIA

2月
開校

海外生・帰国生教育 法人向けサービス

早稲田アカデミーは、海外在住で帰国後に日本の中学校・高校へ進学予定のお子様を積極的にサポートしています。

海外への赴任前・赴任中・帰国後のお子様の教育に関して、
人事ご担当者様に代わってバックアップ致します。

※入会費・年会費は一切かかりません。

詳しくはホームページをご確認ください。

詳細はこちら



2022年 帰国生合格実績 Webで公開中!



早稲田アカデミー

お申し込み・お問い合わせ・資料請求はお気軽にどうぞ。

お電話で 国際部 +81-3-5954-1161

パソコン・携帯で 早稲田アカデミー 帰国生

検索

海外子女教育

No.601 2023

3

*表紙写真
小学部2年 国語
(パリ補習授業校)



ジャカルタのモール（インドネシア）

C O N T E N T S

- 2 今月の顔 山口 翔さん（株式会社インターホールディングス取締役兼CBO）
- 4 特集1 世界を広げる翻訳家たち——海外で読む翻訳文学
- 14 特集2 JOES Davos Next 2022 とは何だったのか？
～記者が見つめた一年半
- 22 連載 家族／クロスカルチャー
「違い」こそがアイデンティティ（後編）
- 25 オススメの一冊
- 26 ◆受け入れ校紹介～学校会員ファイル(240)◆ IPU・環太平洋大学 (International Pacific University)
- 28 連載 JOES Davos Next
- 29 連載 1都1道2府43県めぐり 広島県
- 30 海外校シリーズ | チカラン日本人学校
パリ補習授業校
- 34 連載 校歌の広場 ダルエスサラーム補習授業校
- 35 聞いてみよう！子どもの教育 海外子女教育振興財団 教育アドバイザー 清水賢司
—私も子どもも人づき合いが苦手で、現地の社会にも日本人社会にもなじめません。よくないこと
でしょうか？
- 38 連載 ことばキャンプ 親の質問力を磨く
- 39 連載 「KANJI」はおもしろい！ Four-character idioms ③
- 40 ニュース
- 42 連載 漫画「なっとうねばじろうシリーズ」 オランダ
- 44 2022年度『海外子女教育』総目次 2022年4月号(第590号)～2023年3月号(第601号)

*維持会員企業・団体所属のかたはウェブサイト上 (<https://joes-kaiin.jp/joesportal/>) でも閲覧いただけます。
閲覧にあたって必要となるグループIDは、所属先の企業・団体へお問い合わせください。



公益財団法人

海外子女教育振興財団

海外子女・帰国子女教育の振興をはかるために、海外で経済活動を展開している企業・団体によって1971年に外務省および文部省（現 文部科学省）の許可を受け財団法人として設立されました。それ以来、政府の行う諸施策および維持会員の要望に相呼応して幅広い事業を行っています。2011年4月1日に公益財団法人に移行しました。財団の事業は、おもに維持会員からの会費によって成り立っています。財団のサービスはどなたでもご利用いただけますが、維持会員の皆様には有料サービスを無料または割引にて提供しています。（維持会員一覧表 <https://www.joes.or.jp/kaiin/>）

循環型「エコノミー」を日常に

山口さんの会社は、地球上最高の真空率を実現する超高真空特許技術を活用して、食糧や飲料の生産から小売り、消費までの新しい枠組みを生み出しつつある。

「特殊な逆止弁を使って容器内の空気を九・五パーセント吸い出して、お米でもコーヒードでもワインでもほぼ真空状態で保存が可能にします」

必要なときだけ開けて必要量を取り出すと、また真空状態にして保存できる。そうすることで賞味／消費期限が倍以上になる。

「品質が長く保たれるので、フードロス問題や食糧不足の課題の解決策にもなりますし、過疎地や被災地、あるいは発展途上国等に食糧を届けるのも容易です。それに、容器は破れるまで何度でも洗って使えますし、包装ごみを大幅に削減できます。温室効果ガス（GHG）の削減にもなるのです。」

この容器の普及によって、循環型で「エコ」な食糧の流通を実現したい……それが日常のあたりまえになれば、持続可能でより豊かな社会にできると思うんです」

君の人生は面白いのか？

九歳まで育ったインドのことは、あまり記憶にない。しかし道路にも売りやもの乞いの子どもたちがあふれていたことは覚えている。「それと、もの乞いにするために親に手足を切断される子もいるという話も……」

そういうことも影響しているのだろう。「授

日本発の技術を生かした事業を持続可能な形に



山口 翔さん

(株) インターホールディングス
取締役兼 CBO

1987年、兵庫県生まれ。小1から3年間、インドのボンベイ（現ムンバイ）日本人学校に通った。その後、宝塚の公立小・中・高校で学び、2005年、神戸大学工学部に進学。09年、(株)マクロミルに入社し、法人営業と人事を担当、キュレーションアプリ「antenna」の立ち上げにもかかわった。15年、(株)グライダーアソシエイツへ転籍し、CMOとしてメディアや広告主を支援する新規事業「craft」を開発。20年、(株)パンフォーユーにて取締役を担ったのち、22年10月より真空容器を活用したフードロス、GHG削減を実現する新たな事業のビジネス開発担当にて現職。(株)ookami ほか数社の経営コンサルタントを副業でサポートしつつ、一般社団法人フローズンエコノミー協会の代表理事も務める。



業中に寝たことがないんです。学校に通えて授業を受けられる環境が、幸せなことだと思っていたのですね」と言う。そして「普通の学校で、塾にも通わず普通に勉強して、国立大学に入れたので、次は大きな会社に入れるといいな」と大学時代にぼんやりと思っていたところ、あるベンチャー企業の社長に「君の人生は面白くないな」と言われた。

「そもそも大きな会社に入れば安泰ということはないですよ。ある日突然、会社が売却されたりして(笑)。信じられるものは、自分自身のスキルと経験、人脈しかない。自身の足で立たなければと思いました」

インドではカースト制度の名残もあって、他人の仕事に手を出さないことがお互いの幸せだと考えられているそうだ。

「でも、ITは誰の仕事でもなかったの、PCさえあれば誰でも勝負ができる時代をインドは迎えました。教育環境が整っていないけれど学習意欲は高く、経済が急成長しています。私もそうだったのですが、それに比べて、日本は呑気だなぁと思いますね(笑)」

価値あるモノやコトと人をつなげる

山口さんは「Antenna*」や「craft.」を立ち上げたことで知られる。

「私の仕事はひとことといえば、事業開発。埋もれているモノやコトから価値を見つけ出し、それらを必要としている人に届け、収益を生み出すビジネスモデルを構築します。真



日本人学校の現地校交流会で 前列右端が山口さん



福島県双葉郡大熊町に「フロエコ自販機」を設置
右が山口さん(2023年1月)

空容器も日本独自の技術としてすでにあったものですが、当社で特許技術を買取り、ニーズに合わせてあらゆる関係者を巻き込んで新たなビジネスモデルにしました」

山口さんは冷凍食品にかかわる七十社以上の事業者が集うフローズエンエコノミー協会の代表理事も務めている。

「生鮮食品や加工食品には冷凍技術が適している、これまた埋もれた地方の良質な食品・食材を冷凍技術やIT・物流・百貨店などの小売り等の企業をつないでビジネスにしています。真空と同様に賞味期限が格段に伸び、流通範囲が広がることで、やはりフードロスや食料不足の問題を解決できます」

たとえば東日本大震災の支援プロジェクトとして、さまざまな冷凍品を二十四時間好きなときに購入できる「フロエコ自販機」を今年一月被災地に設置している。

「復興エリアでは店舗が限られ、夜間は閉まってしまいます。そうした食の選択肢が限られてしまう地域の活性化に役立ちたい」

美味しいパンが冷凍された状態で自宅に届く定期便サービス「パンスク」は、コロナ禍による外出制限も後押しし人気を得ている。

「大事なことは、価値あるモノやコトとの出会いを実現するにも、結局は思いを持った人と人とのつながっていくことだと思います。つながることでもこれまで気づかなかった新たな価値や可能性が生まれてきますし、ビジネスや社会の持続性・未来を開いてくれます。面白いようにね」(取材・文 小山和智)

世界を広げる翻訳家たち

海外で読む翻訳文学

自分がいま住んでいる国や文化の物語を、日本語で読んでみませんか。その国の文化への理解が深まれば、現地の人とながりも深まるでしょう。

原書を読むのでもいいけれど、優れた翻訳家の訳で読むのも格別です。

そしてなにより翻訳文学は自分の知らないさまざまな世界にいきなつてくれます。

コロナ禍だ、戦争だと、旅がしにくい時代でも、心はどこにでも旅立てるのです。

『はじめて読む！海外文学ブックガイド』という本があります。

だいたい十四歳くらいの子どもを対象に、各国語の翻訳家たち自身が心を込めて勧める世界中の翻訳文学が四十八冊詰まっています。英語翻訳家六人、それ以外の言語の翻訳家十二人。それぞれが各言語の翻訳の第一人者で、多忙な翻訳家

ばかりなのに、自分が翻訳した本の宣伝ではなく、ほかの人が訳した本でも、専門外の言語の本でも、とても熱く語っています。海外に住む皆さんにもぜひ手に取ってほしい一冊です。

この特集では、この『はじめて読む！海外文学ブックガイド』を執筆した翻訳家のうち、英語翻訳では越前敏弥さん、児童文学の三辺律子さん、そしてロシア語翻訳の奈倉有里さん、韓国語翻訳の斎藤真理子さんという人気翻訳家の皆さんに、本誌の読者に向けた本を特別に紹介していただきました。なかには『はじめて読む！海外文学ブックガイド』で紹介されている本と重なるものもありますが、それらもすべて海外で学ぶ子どもたちを念頭にあらためてご紹介いただいたものです。小さい子から高校生までに向けた本もありますし、大人も楽しめます。

この本、面白いからぜひ読んでみて！

皆さん、目をキラキラさせて、本の面白さを話してくれました。



取材・文 松島 あおい

『はじめて読む！海外文学ブックガイド』
人気翻訳家が勧める、世界が広がる48冊
越前敏弥・金原瑞人・三辺律子・白石朗・
芹澤恵・ないとうふみこ 著
河出書房新社

Part 1

英語翻訳家

越前敏弥さん

お勧めの本

では、さっそく本を紹介していただきます。

まずは『はじめて読む！海外文学ブックガイド』（以下『ブックガイド』）の企画からかかわった『生みの親』である、英語翻訳家の越前敏弥さんです。『ダ・ヴィンチ・コード』などのミステリーの翻訳で知られる越前さんが、次のような本を紹介してくださいました。

『ロンドン・アイの謎』

観覧車ロンドン・アイからいこのサリムが失踪してしまったという事件をロンドンに住む十二歳の少年



『ロンドン・アイの謎』
シヴォーン・ダウド 著
越前敏弥 訳
東京創元社
The Mystery of London Eye
by Siobhan Dowd



『グッゲンハイムの謎』
ロビン・スティーヴンス 著
シヴォーン・ダウド 原案
越前敏弥 訳
東京創元社
The Guggenheim Mystery
by Robin Stevens



えちぜんとしや
越前敏弥さん

『ダ・ヴィンチ・コード』（ダン・ブラウン著）、『Yの悲劇』（エラリー・クイーン著）、『賢者の贈り物』（オー・ヘンリー著）（以上 KADOKAWA）、『大統領失踪』（ビル・クリントン、ジェイムズ・パターソン著、早川書房）など、おもにミステリーやエンターテインメントの訳書多数。著書に『文芸翻訳教室』（研究社）、『翻訳百景』（KADOKAWA）など。

テッドが解決しようとするミステリー小説です。テッドは、ほかの子どもとは少し違う頭の働き方をする少年で、論理的に考えるのは得意だけれど、人間関係を築くのは苦手な「症候群」。ふたつ年上のお姉さんとは仲がいいような悪いような関係だけれど、協力して事件を解決しようとします。

「この本は、ミステリーとしてよくできているし、テッドの語りが面

白いです。気象や天文学にはすごく詳しく大人顔負けの推理をするのに、子ども扱いされてわかってもらえない。同世代の人には気持ちがよくわかると思います」

その続編『グッゲンハイムの謎』

では、テッドは夏休みにニューヨークの親戚を訪ねます。学芸員のグロリアおばさんが休館日のグッゲンハイム美術館を案内してくれるけれど、

見学中にボヤ騒ぎが起き、それに乗じてカンディンスキーの名画が盗まれてしまいます。なんと容疑者として逮捕されてしま

ったグロリアおばさんの無実を証明するため、テッドが活躍します。

『ロンドン・アイの謎』の作者シヴォーン・ダウドは、優れたYA小説をたくさん書いた作家ですが、唯一のミステリーである本作を出版した二カ月後に、四十七歳の若さで亡くなってしまいました。続編は、その彼女の残した原案を、ロビン・ステイヴンスが引き継いで仕上げた作品です。

「ロビン・ステイヴンスは、見事に作風を受け継いでいます。文章の温かさや表現もそっくりでダウドが乗り移ったようです。テッドの特徴である比喩を文字通り受け取ったり、うそをつくことができないことも引き継ぎつつ、少しずつ社会と折り合いをつけて成長していく姿を見事に描いています。成長物語としても、素晴らしいです」

『ぼくは川のように話す』は、吃音でことばが滑らかに出てこない少年の話です。そのせいで学校でいじめられたのですが、お父さんといっしょに川を散歩に行くと、こう言われます。『お前のしゃべり方は変なのではなく、川の流れるようだ。いつもスイスイ流れるのではなく、波



『ぼくは川のように話す』
ジョーダン・スコット 著
シドニー・スミス 絵
原田勝 訳
偕成社
I Talk Like a River
by Jordan Scott

や渦を巻く……川の音に耳をすませてごらん……」

「『気になる』というのではなく、いいアドバイスですね。少年は自分の声に耳をすまし、学校でも話し、自分自身のしゃべり方を受け入れられるようになっていきます。同じような悩みを持つ人にも共感できるかもしれません。絵もとてもいいです。作者のスコット・ジョーダンは、カナダの詩人ですが、自身も吃音です。その作者自ら朗読している映像もありますので、ぜひ聞いてみてください。」

* <https://www.youtube.com/watch?v=xNLbNqy2o&list=437s>
(サンディエゴ・ユニオン・トリビューン紙公式チャンネルの映像。朗読は二分ごろから)



『夢の彼方への旅』
エヴァ・イボットソン 著
三辺律子 訳
偕成社
Journey to the River Sea
by Eva Ibbotson



『ダリウスは今日も生きづらい』
アディーブ・コラーム 著
三辺律子 訳
集英社
Darius The Great Is Not Okay
by Adib Khorram



児童文学翻訳家の三辺律子さんは、本誌の読者のために「引越し」をテーマにした本を集めてくださいました。

『夢の彼方への旅』

二十世紀初めのロンドンで寄宿学校にいたマイアが、両親が事故で亡くなったのを機に、ブラジルのマナウスに住む親戚のもとに引き取られることとなります。財産目当てでマイアを引き取ったカーター夫人は、アマゾンでもイギリス風に暮らすことに執念を燃やしますが、マイアは家庭教師の先生の手引きでブラジルの歴史や探検家の本を読み、ジャン



さんべ りつこ
三辺 律子さん

銀行勤務を経て大学院に進学し、翻訳家に。おもな訳書に『かわいい子ランキン』（ブリジット・ヤング著、ほるぷ出版）、『おじいちゃんの大脱走』（デイヴィッド・ウォリアムズ著、小学館）、『龍のすむ家』シリーズ（クリス・ダレーシー著、竹書房）、『モンタギューおじさんの怖い話』（クリス・ブリストリー著、理論社）、『だれも知らないサンタの秘密』（アラン・スノウ著・絵、あすなろ書房）、『フロラ』（エミリー・パー著、小学館）、『エヴリデイ』（デイヴィッド・レヴィサン著、小峰書店）、絵本に『マチルダとふたりのパパ』（メル・エリオット著、岩崎書店）など。

グルで暮らす少年フィンに出会います……。『ブックガイド』でも紹介されている本で、三辺さんが翻訳中に「何度読み返しても夢中になってしまった」そうです。

『ダリウスは今日も生きづらい』

ダリウスは、イラン出身の母と白

らを迎えたのは、ゾロアスター教徒の祖父母と、初めてのペルシア式の習慣や食べ物……。

「ことばも通じなくて、ちょっと疎外感を感じる気持ちには、本誌の読者ならわかるかたも多いでしょう。

やがて友人もできますが、単純に、楽しんでよかったですね。みたいな終わり方ではない物語なのもいと思います」

『山賊のむすめローニャ』
『長靴下のピッピ』で有名なスウェーデンの児童文学作家アストリッド・リンダグレンの作品で、



『山賊のむすめローニャ』
アストリッド・リンドグレン 著
ヘレン・ハルメ・美穂 訳
岩波書店
Ronja Rövardotter
by Astrid Lindgren



『私は夢を見つづける』
ジャクeline・ウッドソン 著
さくまゆみこ 訳
小学館
Brown Girl Dreaming
by Jacqueline Woodson

小学生でも読める物語です。山賊マ

ッティス一族のもとに生まれたローニャは、両親や仲間の山賊たちと暮らしていますが、ある日、敵対するボルカ山賊の息子ビルクと出会います。

「ローニャは、引越してくる人を受け入れる側です。引越してくるのは別の山賊で、いつも悪口を聞いているので、仲よくする気になれない……。でもひとりの人間として目の前に現れると、気持ちも変わります。『グルーブ』としては拒絶反応してしまうけれど、個人だと印象が違ふ……。現代の移民の受け入れにも通じることですね」

『私は夢を見つづける』

国際アンデルセン賞受賞作家ジャクリーン・ウッドソンの自伝的作品。「散文詩のような形式で書かれていて、原文も読みやすいと思います」一九六〇年代に南部サウスカロライナ州に生まれ、おじいちゃんやお

ばあちゃんと暮らしていますが、当時の南部には黒人はお店に入れないというような差別がありました。だからお母さんとふたり、差別の少ないニューヨークに引越すのですが、寒いし、狭いし、裸足では歩き回れないし……。

「大人がよかれと思って引越しても、大きな環境の変化は、子どもはいやですね。引越しという切り口で見ると、面白いと思いました」著者が文字やことばに興味を持ってきたきっかけなどが描かれ、人間として生きる権利とは何かを少女の目を通して語る作品です。



『ナバホの歌』
スコット・オデール 作
犬飼和雄 訳
岩波書店
Sing Down the Moon
by Scott O'Dell

……火あぶり?!
と思ってしまう。
これを日本語で直訳しても伝わりません。翻訳では「首を切る」……「斬首刑」としました。こ



翻訳の難しさ

翻訳家たちは物語の魅力を伝えるために、いろいろな課題と日夜格闘しています。

たとえば『ロンドン・アイの謎』の翻訳で難しかったのは何か、越前さんはこう語ります。

「物語の語り手であるテッドは、比喩がわからず、何でも文字通り受け止めてしまっています。たとえば『He's tired』というフレーズを、『tired』(解雇された)ではなく『燃やされた』

れはうまく訳せた例ですが、この手の比喩が何十カ所もあって、翻訳者としては楽しいけれどしんどい作業ですね」

三辺律子さんも、読みやすさとわかりやすさのバランスで苦労しています。

「たとえばアメリカのYA文学で、家族の行事から登場人物がユダヤ系だとわかるとか、スペイン語しか話さないおばあさんが出てくることで移民の子孫であるという背景を匂わせるとかがあります。日本の十代の読者にはピンとこないかもしれないので、注をつけることもあります。

一方で、サラリと読める物語の流れも大切なので、あまり細かく注がついているのも……と悩ましいです」

何も知らないまま読んで、大人になって読み直すと、初めて気づくこともあります。でも三辺さんは「それはそれで、いいのではないか」と思っているそうです。

「私も子どものころ『ナバホの歌』

が大好きでした。これはネイティブアメリカンの人たちが生まれ育った土地を追われて収容所へと何千キロも歩かされる物語なのですが、子どものころはそんなことはまったく知りませんでした。でも子ども心にも、大人たちが無気力になっても、子ど

もが前向きな希望を持ち続ける物語の力が響いていました。大人になって読み直して、「こんな話だったのか！」と驚きました」と、三辺さん。

紹介マニアの翻訳家たち

こうして日夜二つの言語と闘うだけでなく、さらに自分や他の翻訳家の訳書を紹介する……特に越前敏弥さんは、自らの役割は「場をつくること」と考え、イベント、勉強会、読書会などの企画に八面六臂の活躍『ブックガイド』の制作にも最初からかかわっています。

『ブックガイド』の企画の数年前に、書店員さんが店頭で開催した海外文学フェアがあり、私は最初から手伝っていました。やがてNHKの『基礎英語2』の月刊テキストブックの連載で、英語翻訳家六人で毎月順番に本を紹介するようになって、その連載をもとに『ブックガイド』をまとめることになりました

三辺律子さんは『ブックガイド』の書籍化にあたり、越前さんと共に英語圏以外の言語の翻訳家に声をかけました。本書のほかにも、金原瑞人氏と共に海外文学を紹介する小冊子（フリーペーパー）『BOOKMARK』



『BOOKMARK』
<https://kanehara.jp/bookmark>

を編集しています。つまり、筋金入りの「紹介マニア」なのです。

これほど本を紹介したいと思う熱意はどこからくるのでしょうか？

「翻訳者が何カ月もかけて翻訳する作品は、自分が好きで、読んで面白い、と思う本です。翻訳するため、一行一行まさに「精読」します。が、優れた作品はほんとうに隅々まで素晴らしい。こんなに面白いのだから、たくさんの人に読んでほしいと思うのです。さらに、日本人になじみの少ない国や言語の翻訳者たちは、その国や地域、文化への愛にあふれ、伝えたいという熱意が強いです」と、三辺さんは語ります。

というわけで、次の章では、英語以外の言語の翻訳家に話を伺いました。



なぐら ゆり
奈倉有里さん

レフ・トルストイの『復活』が好きで、雪が好きだったので、高校生のころにロシア語を始め、高校卒業後に単身ロシアへ。ロシア国立ゴーリキー文学大学を卒業。訳書に『手紙』（ミハイル・シーシキン著、新潮クロスト・ブックス）、『赤い十字』（サーシャ・フィリペンコ著、集英社）など。今年1月より、月刊誌『文学界』にて文学講義小説『ロシア文学教室』を連載。

ロシアの文学と詩

「いろいろな国の作品を読もう！」と思っても、実際は翻訳されていない作品もまだまだたくさんあります。ロシア語翻訳家の奈倉有里さんも、「ロシア語の本で日本語に翻訳されているものは少ないし、さらに最近の児童書になるとほんとうに少ない



です。私も翻訳したい作品があるけれど、手が回らない状態です」と言います。

そして、児童書の翻訳には別の難しさもあります。

「ロシアの児童文学は、詩で書かれているものが多いのです。韻があつて、形式があるからリズムがよくて、寝る前の読み聞かせにもぴったります。でも、それを日本語に翻訳して、子どもに面白く伝えるというのは、並大抵のことではありません」

日本語で読める作品の一つに、コルネイ・チュコフスキーの絵本があります。

「ソ連時代の詩人ですが、ロシアではいまもほんとうによく読まれています。詩のリズムもよく、内容も



『でんわ』
コルネイ・チュコフスキー 作
田中潔 訳
偕成社
Телефон
Корней Иванович Чуковский



『世界J文学館』
小学館
<https://www.shogakukan.co.jp/pr/sekaij/>
125作品を収録した文学全集。
紙媒体の本に掲載されたQRコードから、本文をデジタルで読む形式。



『理不尽ゲーム』
サーシャ・フィリペンコ 著
奈倉有里 訳
集英社
БЫВШИЙ СЫН
Саха Филипенко

ロシアに二〇〇二年から二〇〇八年まで留学したころの思いを綴った『夕暮れに夜明けの歌を 文学を探しにロシアへ行く』で紫式部文学賞を受賞しています。

とぼけていて面白いのです。たとえば『でんわ』は、くぼくのところにいろいろな動物から電話がかかってくるのですが、象から、チヨコレートがほしいと頼まれて、くどれだけ送ればいいんだい?と聞くと、くハ〇キロか、一〇〇キロか……ほんのちよつとでいいんです!」

有名ですが、原作は子ども向けの物語詩です」

これらはソ連時代から長く親しまれている作品ですが、最近のロシアの児童文学界はどうでしょうか。「ソ連崩壊後には、ロシア国内で翻訳文学が増えたのはよかったのですが、『ハリー・ポッター』シリーズが流行ったあと、ロシア版の二番煎じ・三番煎じがあふれて、ロシアの作家が育ちにくい時期もありました。その後、児童書とYA専門の出版社が育っていたのですが、この数年は海外のブックフェス参加禁止など規制が厳しくなり、たいへんな時期が続いています」

最近では世界の文学一二五作品を収録した小学館『世界J文学館』に、ロシアの古典作品が収録されています。奈倉さんもトルストイ作品を翻訳しています。「『イワンのばか』を翻訳し、あらためてもう一度読みたい作品だと思いました。『深紅の帆』(沼野充義訳)は、アレクサンドル・グリーン独自の空想の世界で、夢見る少女が主人公ですが、ロマンチックなだけではなくつくり込まれていてとてもいい物語です。そしてプーシキンの『ルスランとリュドミラ』(板庭淳史訳)はオペラとして

『理不尽ゲーム』は、児童書ではありませんが、ベラルーシ共和国を舞台に、十六歳の視点から社会を見つめる物語です。サツカーが好きな少年ツイスクは、屋外フェスに出かけますが、急に雨が降り出して地下

鉄の入り口に人が殺到し、将棋倒しになる事故に巻き込まれます。(これは一九九九年に首都ミンスクで実際にあった事故です)。一命を取り留めたものの、昏睡状態で十年の月日が流れ、目覚めたときには家族も友人も、そして社会も大きく変わっています。でも大統領は同じで権力を手放さず、批判すると逮捕され、人々がおびえて暮らしている。心は十六歳のままのツイスクには、理不尽にしか思えません。

「若いときの妥協しない目線から、社会が硬直していく怖さ、人が消えていく、いつ逮捕されるかわからない社会を描いています」

文学のことばはどこにある?

翻訳以外にも、奈倉さんは二〇二二年に『アレクサンドル・ブローク詩学と生涯』でサントリー学芸賞、

『夕暮れに夜明けの歌を 文学を探しにロシアへ行く』は、ロシア国立ゴリキー文学大学で出会った尊敬するアントノフ先生、親友のマーシヤ、サーカスの少年や同級生たちなどの人々の魅力もさることながら、奈倉さんの文学や学問への情熱に驚かされる本です。



『アレクサンドル・ブローク 詩学と生涯』
奈倉有里 著
未知谷



『夕暮れに夜明けの歌を 文学を探しにロシアへ行く』
奈倉有里 著
イースト・プレス

ではあらためて、「文学」とは何でしょう？

「ロシアの文学大学での最初の授業は『文学のことばはどこにあるか』でした。日本では、文学というと、作家が書いている小説など、どこか特別な場所にあるものというイメージでしょうか。その授業では、まず黒板にさまざまなことばを図のように書いていきました。メディア、日常生活、政治、専門技術、芸術のことば……方言もあり、一部の人にしか通じない俗語もある。黒板があらゆる種類のことばで埋め尽くされたとき、『では文学はどこにあるのか？』どこか高みにあるわけではありません。黒板を埋め尽くすことばのすべての外側をくくって、すべてを自由に使える、それが文学だ、と。つまり雑多な世界を、どこから見て、どう切り取って考えるか、そこから始まるのです。政治やメディアのことばに、どこから切り込むか雑多だからこそ、できることがあります。たとえばトルストイは、非常に大きなテーマを扱いながら、最も小さな魂まで考え直して、そこから世界を構築し直しました。社会の根本を本気で考える、という面白さがあるのです」

白か黒かを問うのではなく、内面の自由を手に入れる

一方現代社会では、SNSなどで短いことば、情報があふれています。「特に戦争になると、何があった、どうなっている、という情報がどんどん入ってきて、誰もが『白か黒か』選択を迫られるような気がします。でも私の周りには、母はウクライナ人で父はロシア人とか、ロシア人と結婚してモスクワに住むウクライナ人など、白か黒かと問われても困る人も多いのです。さらに一面的な情報やデマがあつたりする。それによつて失われる心の状態があると思います。」

日本でロシア文学を学ぶ学生たちも、将来はロシア語で仕事をしよう、留学したいと、それぞれ希望があります。戦争が起きてしまうと、その後何十年も影響が残りますし、今後どう生きていくか、皆が不安になっています。

そんな不安なときにも、小説や詩を読むと、たとえば一〇〇年前の詩人がすぐく夢中になった情熱が、ふつと自分に飛び移ってきます。自分の心が、その詩人と直接通じ合う、それが読書の楽しみです。特に詩は、

作者の情熱の火が自分の心に点りまゐる。私が日本人だとか、いつどこに、いるか、まったく関係ない自由、内面の自由が飛び移ってくるのです。そういう心の状態を得るのは大事なことでと思います。

私が留学したころは好きなだけ勉強ができて、恵まれていました。いまの学生にも、好きなだけ本を読んでもいい、安心して勉強できる空間を持つてほしい。そのために私もできることをし、伝えるべきことは書いていきます」

Part 5 自分の座標軸を見つめるために

韓国語翻訳家 斎藤真理子さん

「十代のころって、学校で習うことと、自分のやりたいこととの間に距離があつて、モヤモヤしますよね。海外に住んでことばもわからずモヤモヤしている人もいるでしょう。何か書きたくても、どのように書いたらいいかわからない……」

韓国語翻訳家の斎藤真理子さんは、そんな思いを抱いているかもしれない海外の子どものために本を選

んでくださいました。

最初に紹介してくださったのは『日刊イ・スラ』。韓国のソウルに住む著者イ・スラさんが二十七歳のころ、学資ローンを返済するため、SNSで集まった登録読者に毎日一つずつ物語をメールで送るという形で始まった異色の作品です。

「いまでは人気作家ですが、そのキャリアの第一歩を自分でプロデュースしたのがすごいと思います。でも既存のシステムを否定したわけではなく、必要に迫られて、自分に何ができるか考えたうえでのことでした。出版社や編集者を介さず、有料なので面白くなければ購読されませんから、厳しい道です。でも大人気になりました。日本でも韓国でも、これから若い人が働くうえで、いろいろな方法を使い分ける多様性や柔軟性は重要だと思います。これ以上



『日刊イ・スラ 私たちのあいだの物語』

イ・スラ 著
原田里美・宮里綾羽 訳
朝日出版社

일간 이슬아 수필집/심신 단편
이슬아



撮影：増永彩子

さいとう まりこ
斎藤真理子さん

韓国語翻訳家。訳書に『カステラ』（バク・ミンギュ著、ヒョン・ジェフンとの共訳、クレイン）、『こびとが打ち上げた小さなボール』（チョ・セヒ著、河出書房新社）、『82年生まれ、キム・ジョン』（チョ・ナムジュ著、筑摩書房）など。著書『韓国文学の中心にあるもの』（イースト・プレス）は、本誌1月号「オススメの一冊」でも紹介。

豊かになれない社会で、自分は何を守れたら倒れずに生きていけるのか、自分が自分であるためには何が大事なのか。その方法は企業も学校も教えてくれないから、自分で見つけるしかない。でも見つけられたら希望が持てる……。切実だと思います」

『日刊イ・スラ』には、日常生活をフィクションとノンフィクションの中間にあるようなスタンスで描いた短い物語が詰まっています。「一つ一つが濃厚です。日常のいろいろな人との対話のなかで気づいたことについて、時間をかけて考え、書いています。たとえばお母さんの五十年の人生と向かい合う二十代の時間が凝縮された文章は、サラリと読めず、立ち止まって咀嚼（そじく）する必要があります」

斎藤さんが印象に残った箇所の一つに「私が主人公の文章に飽き飽きした」という一節があります。「私という人間の構成は、家族、社会、政治、国家、環境、科学、時代の文脈の中で解釈される。世の中における自分の座標を知るためには、まずは世の中を理解する必要がある」（服と舞台）章）

「これは自分を知りたいのではなく、自分の座標軸を知りたい」ということです」と、斎藤さんは解釈します。「生活のなかで、周囲で起きる出来事と自分の考えは、連動してDNAの螺旋（らせん）のように絡まり合っています。それをどう文章にしたら、自分が生きていて楽しいでしょうか」

日記で問いを立て 座標軸を得る

座標軸を得るために、斎藤さんが勧めるのは「日記」です。

「多くの人が、見たものや思っていることを記録し、書くことで考えを整理していると思います。人は記録しておかないと、いろんなことを忘れてしまいます。前に似た体験があっても、どう乗り越えたかわからない。SNSの発信だと、そのときのレスポンスだけで宇宙ができあがり、記録に残りません。紙とペンの日記は身体に近いメディアで、あとで読み返すとハッとすることもあります。自分と向かい合い、モヤモヤしていることに問を立て、答を見出すまで考える。何がわからなくて困ったのか、ほかの人は気にしないけど自分はいやだと思うツボは何か？それが個性であり、座標軸となるのです。いい問を立てれば、いい答が出ます。そしていい問は、書く経験を積むことによって生まれます」

でもどう書いたらいいかわからない。そんなときは、ほかの人の日記を読むのもお勧めです。

「日記には、小説とはまた違う活力があります。日付があるので、変

化や成長していく様子がわかります。『アンネの日記』なども、日記形式でなければあそこまで読まれなかったのではないのでしょうか」

命がけで書かれた 日記を読む

人々の座標軸を大きく崩し、破壊するのが戦争です。第二次世界大戦中にアンネはユダヤ人として迫害されますが、当時の日本のティーンの内気持がわかるのが、『田辺聖子十八歳の日の記録』です。翻訳文学ではありませんが、恋愛・歴史小説や随筆を数々残した田辺聖子さんの日記で、二〇一九年に亡くなったあとに見えられました。

「田辺聖子さんは終戦当時十八歳でした。真面目で純真、多感な軍国少女で、けなげにお国の勝利のために尽くそうと思っています。でも、



『田辺聖子 十八歳の日の記録』
田辺聖子 著
文藝春秋



『暗黒日記：1942-1945』
清沢洌 著
岩波文庫



『敗戦日記』
高見順 著
中公文庫 BIBLIO



『終戦日記一九四五』
エーリヒ・ケストナー 著
酒寄進一 訳
岩波文庫
NOTABENE 45 Ein Tagebuch
Erich Kästner

世界の大きなうねりに翻弄されて、大阪の空襲で家が焼け、終戦に衝撃を受けます。自分は国を守ろうとしたけれど、国は自分を守ってくれなかった……。時代の変化をビビッドに受け止めた少女の日記に、歴史の断面が鮮やかに現れています。その体験から生まれた「戦争は二度とあってはならない」という思いが、その後の小説の基盤となっています」

『ブックガイド』では、ドイツ文学者の酒寄進一さんが『終戦日記一九四五』を紹介しています。児童文学で有名なエリッヒ・ケストナーの日記です。斎藤さんはこの本を、日本の作家・高見順の『敗戦日記』、外交評論家・清沢洌の『暗黒日記』と合わせて、同じ日にそれぞれ何を考えていたか読み比べるのだそうです。

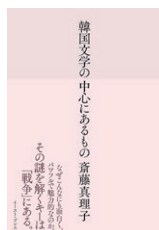
「第二次世界大戦中に枢軸国にいた『自由でない国に住んでいた自由人』たちが克明な文章や当時の新聞の切り抜きで記録しています。自国が悪くなる『愚劣さ』を記録するのは胆力がいらいます。コロナ禍もそうですが、情報や噂が錯綜すると、何がほんとうにあったことかわからなくなり、翻弄されると自分の座標軸がなくなります。当時ケストナーはナチスに執筆を禁止されていたので、日記が見つかったら命も危ない。でも後世に誰かが役立てるようにと、『知識人のおじさん』たちが大人の責任として、十八歳の田辺さんのような若者のために書き残したのです。誰もが巻き込まれた膨大な悪夢を、さまざまの人がそれぞれ違う軸で書いた手綱を多方向から握ってみると、戦争のイメージが立体的になります」

歴史や背景がわかると文学もわかる

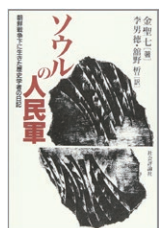
第二次世界大戦直後に起きた朝鮮戦争の影について、斎藤さんは、自著『韓国文学の中心にあるもの』で深く言及されています。資料として最も役立った『ソウルの人民軍―朝鮮戦争下に生きた歴史学者の日記』（金聖七著、李男徳・館野哲訳、社会評論社刊）は、ソウルが三カ月間朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）に占領された時期のことを歴史学者が記録した日記です（現在は絶版）。

若者に『これからどうなる？』と問われても、歴史学者でも『わかるわけではない』。そんな正直な心情も綴られています。

「私が韓国語を学びはじめた七〇年代には、韓国文学は謎でした。あまりに社会状況が違いすぎて、想像のつかない世界が描かれている気がしました。徐々に文学がわかってき



『韓国文学の中心にあるもの』
斎藤真理子 著
イースト・プレス



『ソウルの人民軍 一朝鮮戦争下に生きた歴史学者の日記』
金聖七 著
李男徳・館野哲 訳
社会評論社刊

たのは、韓国の経済が発展して両国の生活が近づき、また韓国現代史を理解したあとでした。映画を見たり友人と話したりして歴史に肉づけができたのですね。韓国人と日本人は一見似ていても、その足もとにはまったく違う歴史があります。それをたどっていくと、ある意味でショックを受けます。でもそのショックこそ、自分自身の座標軸がわかる瞬間でもあります。

違う世界を理解できると、語学をやっているよかったです。一方、日記を書くことができる第一言語も大切ですね。

誰も生まれる時代は選べません。現在の十代の皆さんも、いま起きていることを、必死で受け止めて生きているという意味では世界のどこの誰とも同じです。いまの出来事と自分の思いを、ぜひ書いておくと思います」

翻訳作品を 読んで 紹介しよう

本誌の読者には「自分でも翻訳したい!」という人がいるかもしれない。翻訳をするには何が大切でしょうか。

「まず時間をかけて原書をじっくり

り読み込むことが大切です。英語圏に暮らしていたから英語の原書を理解していると思つていても、じつは

わかった気分だけということもありますね。ことばをシャワーのように浴びるだけで、表面的にわかったように思うのは怖いのです。翻訳することと、じつはわかつていないことが何かが自分でもわかる。二つの言語を行き来して深くものを考えると、両方の言語に強くなります。母語がしっかり読み書きできないと、第二の言語がそれ以上になることはあり

ません。でも第二言語をしつかり学ぶと、母語も強くなります」

今回お話を伺った皆さんも、最初から順風満帆だったわけではありません。たとえば三辺律子さんは「私は学生時代から英語は好きだったけど、エスカレーター式に大学に入り、卒業後は銀行勤めをし……すべてが『なんとなく』でした」と言います。でも転機がありました。「銀行を辞めて大学院で児童文化研究を始めたときに、『翻訳したい』と初めて声に出して言いました。当時はその難しさもわからず、恥ずかしかったけれど、言つてよかったです。声に出すことでチャンスも生まれます」

違う意見を受け入れ 土台を豊かに

大学などで教鞭をとる翻訳家も多く、特に越前さんは勉強会や読書会

も開催し、「文芸翻訳教室」などの著書もたくさん出版しています。

「教えることによって自分でもいろいろなことがわかっていく楽しみもあります。勉強会を立ち上げて、質問されてさらに深く考える。たとえば『越前敏弥の英文解釈講義』『クリスマス・キャロル』を精読して上級をめざす』などはそこから生まれた本です。読書会でも、違う意見を聞くのが楽しいですね。お互いに違う意見を楽しむためには、受け入れる土台が必要です。海外の作品を読むと、その土台が豊かになります。いろいろな文化を知ると、戦争をしたり、相手が間違っていると責めたりする思考にならない……我々翻訳家の仕事は、その相互理解を目指すことです。でも根っこは、本を読むのも、翻訳も、まず面白いから。楽しいから始めていくべきですね」



『文芸翻訳教室』
越前敏弥 著
研究社



『越前敏弥の英文解釈講義
『クリスマス・キャロル』
を精読して上級をめざす』
越前敏弥 著
NHK出版

Davos Next 2022とは 何だったのか？

記者が見つめた1年半

世界中にいる日本人の子どもたちをつなぐ前例のない学びの場 JOES Davos Next 2022。11月11年九月の基調講演に始まり、グループワークを経て十二月の交流会（今号28ページ連載参照）で幕を閉じた。最初に構想を聞いたときは、「大規模な講演会なんだな」と単純に考えていた。しかしどうやら「大規模なグループディスカッション」らしい。すると、「世界中に散らばっている日本人を、どうやって？」と疑問が沸き上がってくる。正直なところ、「実際にそんなことが可能なんだろうか」とも考えた。プロジェクトに伴走してきた記者が、一年半をふり返った。

取材・文＝只木 良枝



グアム日本人学校



蘇州日本人学校

このページの写真はノーベル賞受賞者の山中伸弥教授による基調講演に参加した日本人学校の子どもの様子



プノンベン日本人学校

目指すは「ダボス会議」

何か大きなイベントがあるらしい。そんな話を耳にしたのは、二〇二一年秋ごろのことだった。

海外子女教育振興財団（JOES）による創立五十周年記念事業「未来世代協創プロジェクト」、その中核イベントだという。そのときは、在

外教育施設のいくつかを結んで大々的にセミナーでもやるのかな、と考えていた。

発案者は綿引宏行理事長だという。まずはその話を聞こう。そう考えて理事長室を訪れると、次々にことばが練り出されてきた。

「未来世代とは、現在小学校高学年から中学生の子どもたち。次世代はおもに大学生や高校生を指しますが、その次の世代という意味の造語です。二十年后に社会の原動力にな



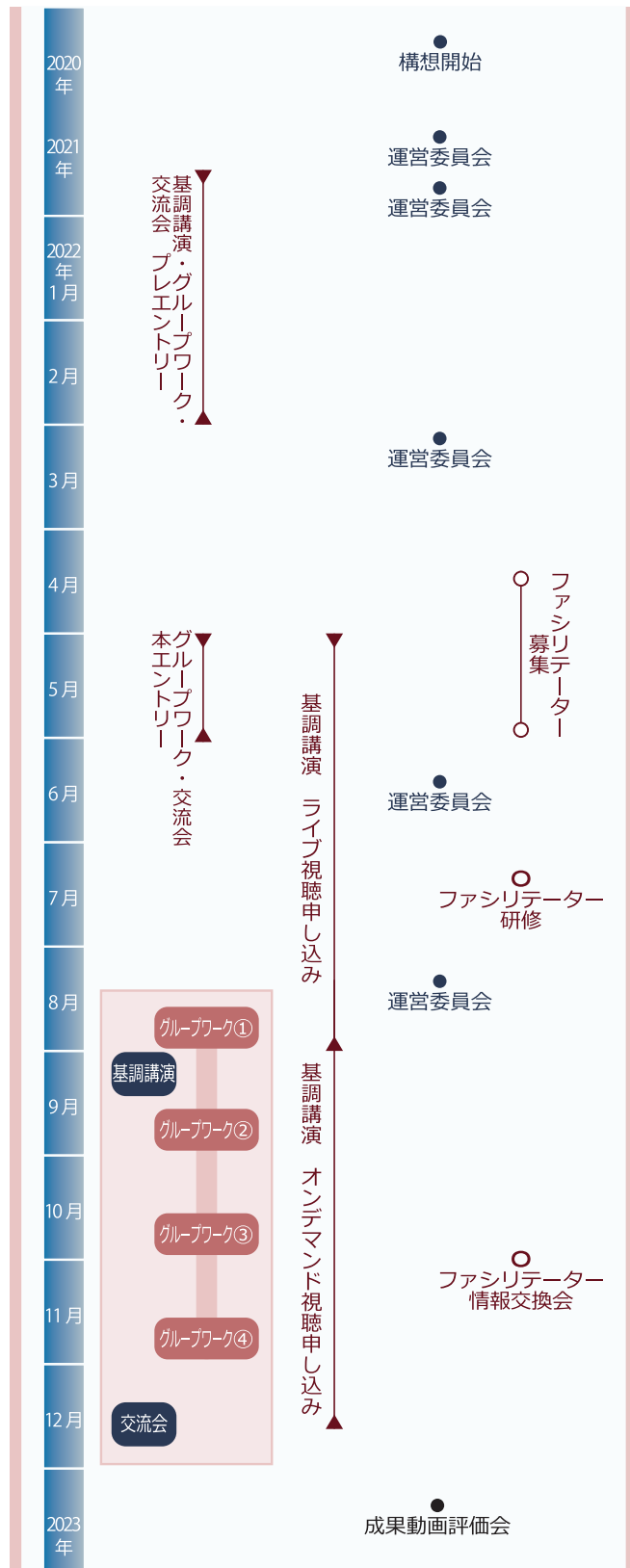
海外子女教育振興財団
綿引宏行 理事長

る子たち。この世代から、ダボス会議に参加して世界の課題を議論できるように人材を生み出したいんです

よ。そのために、新しい学びの場をつくりたいんです」

ダボス会議は世界経済フォーラムの年次総会の通称だ。政治・経済、学者など世界のリーダーがスイスのダボスで一堂に会し、世界的な課題について議論し合う場。そこを目指すから、「Davos Next」なのだという。

「JOESは教育者ではない。教育を支援する団体です。ミッションは、新しい学びの場の提供と、学び



方の提案と、そしてそのための資源の確保の三点です」

新しい学びの場がオンライン、新しい学び方が、世界中をつないだグループディスカッションというわけだ。それに先立つ基調講演の講師は、ノーベル生理学・医学賞を受賞した医学者の山中伸弥教授だという。

多くの海外子女・帰国子女とかかわってきた綿引理事長には、もう一つ思いがあるようだ。

「大人たちは君たち世代に期待しているんだという強いメッセージを届けたい。それが伝わらなくては、海外で、あるいは帰国後にがんばっている日本人の子どもの力にならないでしよう?」

綿引理事長と共に構想を温めてきたのが、東京大学大学院情報学環客員教授の辻村清行さんだ。NTTドコモ創立メンバーとして知られ、日本のICTを語るうえで欠かせない人物である。

「現代は答のない時代。環境問題、少子高齢化……誰も答を知らないことを、いままでと同じやり方で考えていてもダメですよね」

だから意見の違う人と知恵を出し合い、ディスカッションすることが重要だと辻村さんは言う。

「それと、日本の発信力はいま低



東京大学大学院
情報学環客員教授
辻村清行さん

下しています。残念ながら日本の四十代、五十代は、答のないことを議論したり、英語で発信したりすることが苦手です。必要がないから訓練してこなかったんです。だからいまのうちに、二十年後を見据えて国際社会できちんと発言し、議論できるような人材を育てていかないといいけないんです」

このことについて、辻村さんと綿引理事長は何度も話し合い、危機感を共有してきた。何か自分たちでできることはないだろうか考えるなかで、Davos Nextの姿が形になってきたのだという。

「JOESが支援しているのは世界各地で暮らす日本人の子どもたち。違う環境で育っているから、違う意見を持ちやすいのではないか。そういう子どもたちをつないで、ディスカッションをする機会を提供できた、と思ったんです」

よどみなく熱く語る綿引理事長、冷静な口調で新しい学びの必要性を説く辻村さん。未来世代の子どもたちへの期待と、その子たちのための学び場をつくるのだという強い思いが伝わってきた。

しかし、ディスカッションといっても、会ったこともない子どもたち同士で、そんなことができるのだろうか。

綿引理事長はニッコリして、種明かしをするような口調になった。

「そこで、海外子女OB・OGにファシリテーターとして各グループに入ってもらうんです」

聴いているうちに、こちらにも熱が伝染してきた。実現したら素晴らしいことだ。とはいえ、実際はどうやるのだろうか。

「またとない機会」 「設計次第」

JOES Davos Nextはオンラインで実施するという。構想が具体化する時点で、すでにコロナ禍によってオンラインは学校現場に急速に普及していたし、JOESではそれ以前からオンライン化を進めていた。基本方針は最初から決まっていたよう

だ。「すべての海外子女と帰国子女が無理なく参加できる形を模索している」と綿引理事長は語っていた。

二〇年の夏ごろ、JOES教育企画チームリーダーの関口美樹さんは、このころに基調講演の講師である山中伸弥教授と綿引理事長との打ち合わせに同席している。それに先立って、「こんなことを考えているんだ」と企画書を見せられた。

「これは教育現場とダイレクトにつながるができるまたとない機会とワクワクしたのを覚えています」

もちろん実現までの困難も予想されたが、自称「難問に当たるとがんばりたくなっちゃうタイプ」の関口さんの脳裏には、もう世界中の子どもたちが語り合っている情景が浮かんでいた。

次に加わったのが同じチームの斎藤陽平さんだ。関口さんによると「泰然自若としていて、何事も緻密に計算して積み上げるタイプ」。企画の具体化のために実務を動かしていくには、うってつけの人材だ。その斎藤さんは「どう実現まで持っていくか、これは設計次第だな」と、冷静に事態を見ていた。

運営委員会も動き出した。辻村さんを筆頭に、グループワークのデザインを担当する教育工学者の山本良



太さん(東京大学大学院情報学環特任助教)、オンラインの「世界同時授業」を実践してきた齋藤暢さん(元蘇州日本人学校学習指導部長、二〇二〇年四月から仙台市立広瀬中学校研究主任)、国内外で活躍するフリーキャスターの桑原りささんが積極的な議論を重ねた。ファシリテーター代表として参加していた現役大学生などの若い世代も、堂々と意見を述べた。綿引理事長の熱意が全員に

伝わり、会議はぐいぐい進んでいった。意見の対立があっても修正したり、それを上回るアイデアが出たりして、プロジェクトは徐々に形になっていった。

申し込み開始、そして……

JOES Davos Next 2023のメインセッションは、基調講演とそれを受けたグループワークから成る。基調講演の講師はノーベル賞受賞者の山中伸弥教授だ。「たんなる講演会ではない」と、綿引理事長は強調していたが、山中教授というビッグネームを迎え、「お話を聴く」以上の何ができるのだろうか。そもそもオンラインでは、会場と同じ空気の中にあるという経験もできない。しかし、それではたんなる講演会だ——。そこで、子どもたちが直接質問できる機会を設けることになった。

二〇二一年十一月からプレエントリー開始。在外教育施設への告知に続き、年明けからはマスメディアや企業などへ向けて本格的な広報を展開、本エントリーは五月に始まった。子どもたちに向けての発信もスタートし、蘇州日本人学校の生徒が描い

たイベントの内容と山中教授の業績を紹介する漫画は、わかりやすいと好評だった。

綿引理事長は「参加者一万人が目標」と言う。容易な数字ではない。じつは綿引理事長自身も「実際は、まあ六割程度だろうな」と思っていた。ところが申し込み数は順調に推移、夏のはじめには一万人の大会が見えてきた。

基調講演は九月。それに先立つ運営委員会の席で、「いよいよ講演会」とはやり立つメンバーの気持ちを抑えるように、辻村さんがこう提案した。

「目標ラインを決めましょう。初回の今回は、参加希望者が講演を聞けて、ディスカッションに参加できること。それができればサクセスです」

続いて、通信トラブルの場合、病人が出た場合などの具体的な手順を確認した。一万人が参加するイベントだ。失敗は許されない。

「ささった」基調講演

こうして迎えた講演会当日。「今日は風が強いです」と、山中教授は



医学者 © 京都大学IPS細胞研究所
山中伸弥教授

大阪の自宅から語りかけた。自らの子ども時代や研究を志したきっかけ、そして順風満帆ばかりではなかった研究者としての半生を、親しみやすくわかりやすいことばで語っていく。時間があつと言う間に過ぎた。

続いて桑原さんのナビゲートで、事前に質問を寄せていた子どもたちがカメラをオンにして山中教授に直接問いかけた。ノーベル賞受賞後の生活の変化や研究者としての心得に関する質問が続く。「生き物の一生の意義」を尋ねた子どもに対して、



フリーキャスター
桑原りささん



山中教授は「人間ではなく、生き物全体ですね」と質問の趣旨を確認し、「深い、どこまでも続くような質問ですね」と共感を示した。また、「中学生に戻れるなら英語を勉強したい」と言って、失敗談をユーモアを交えて披露した。

続いて講演中にオンラインで送られてきた質問を桑原さんが代読。なかにはiPS細胞をめぐる国際特許や生命倫理に踏み込んだ内容のものもあった。次々に飛び込んでくる質問を、桑原さんが冷静にさばいていた。

当日のライブ配信は約二〇〇〇人が同時に参加、その後のオンデマンド配信は、世界中で約八〇〇〇人が視聴した。

基調講演の反響は大きく、JOESには感想のコメントが続々と届いた。「先生のことばの一つ一つが心に響き、生きていくヒントになった」「自分の夢に自信がなかったけど、講演で勇気をもらった」「困難なところで、山中教授のようにあきらめずに挑戦していきたい!」

届いたコメントを読みながら、関口さんはパソコンの前で号泣したという。

「講演の内容をかみしめたからこそ出てきたことばだと感じました。心に『届いている』と思いました」

綿引理事長のもとには、

親子でいっしょに視聴したという声がいくつも寄せられた。昼間に父親が職場で視聴し、帰宅後に子どもと感想を語り合っ

たという家庭もあった。なかでも綿引理事長を感激させたのは、「たんなる子どもの夢だと思ってきたが、本気で実現させてやりたくなった。親としては、ガンバレと言っているだけじゃダメなんです」というある保護

者のことばだった。

「親子いっしょに視聴してほしい」と思っていました。保護者がこんな気持ちになってくれることまでは想定していなかった。Davos Nextが目指したことが、保護者の心にも深くささったんだと。これはほんとうにうれしかったです」

オンラインのグループワーク

パート2のグループワークには、世界各地から約二八〇人の申し込みがあった。関口さんも斎藤さんも、この数字は正直予測していなかったという。

グループ分けの方針は「居住地域、性別、学年ができるだけバラけるように」。参加者から使用希望言語と希望する時間帯を聞き、表計算ソフトに書き込んで見比べながらグループを作成し、次にファシリテーターを割りつけていく。パズルのようなたいへんな作業だった。緻密な仕事をする斎藤さんも「結局どこまでこだわるか、自分が納得できるか、でした」とふり返って苦笑した。

使用言語は日本語と英語の二言語で、全体の約四分の一が希望して英

語グループに入った。

グループワークのテーマは「世界の人たちが健康で幸せに暮らすために私たちができることを考えよう」。運営委員会で議論を重ねて、ようやくまとまったテーマだった。子どもたちは、自分の夢の職業を通して世界の課題解決を考える。夢を実現すれば、誰のどのような課題が解決できるのか、そしてその課題を解決できるのかの職業はあるのか。

ディスカッションは全部で四回。オンライン会議システムのZoomを使用して、五人程度のグループの一つずつにメインとサブのふたりのファシリテーターが配置された。参加者は一人ひとりが用意されたワークシートに思いを記入し、その内容をグループの仲間と共有しながら、ディスカッションを進めていった。

ディスカッションは基調講演と前後して初回の顔合わせを実施。続く第二回では、山中教授の基調講演の感想を共有した。

前年の打ち合わせの段階から、山中教授と綿引理事長は講演からグループワークへのつながりを強く意識していた。そのねらいは的中し、山中教授の講演に触発された子どもたちは、各自の夢を意欲的に語っていた。

第三回では「自分の夢の職業」についてグループの仲間とディスカッション。その夢でどんな社会課題を解決したいのか、さらに、その課題を解決できるほかの職業はあるのかについて語り合った。第三回と第四回の間に別グループのメンバーからもコメントをもらい、最終回となる第四回では「明日からの行動宣言」をもとにディスカッションの成果を発表してその様子を動画に収め、無事に日程を終了した。

ワークシートと ファシリテーターの活躍

「ディスカッションは、『緯度』と『経度』から構成されていました。これが、じつにうまく機能しました」と綿引理事長はふり返る。

同じ時間を共有するライブのディスカッションはいわば経度。これに対してワークシートを活用するのが緯度にあたる。ワークシートには、グループの仲間や別グループの子どもたちがコメントを書き込む欄がある。それを読んだり書き込んだりする作業は、時間の制約なく自分だけできる。山本さんと事務局が検討を重ねて練り上げたものだった。山



東京大学大学院
情報学環 特任助教
山本良太さん

本さんは効果をこう語っている。

「グループワークは、オンラインのディスカッションだけでは完結できないと考えていました。落ちついて考えたり調べたりする時間が必要で、それがないとたんなる交流になっってしまう。ワークシートはそのためのツールで、ねらい通りに使ってもらえたと思っています」

ディスカッションが得意な子ばかりではない。恥ずかしさが先に立ったり、同じ意見を先に言われて黙ってしまった。しかし、書き込みなら自分の意見を遠慮なく述べられる。さらに、ワークシートに書き込みをしてもらうと、自分もほかの人にかわりたくなる。

「みんなで夢をかなえたいという気持ちになれば、自分だけ夢をあきらめるわけにはいかないというモチベーションにもつながりますよね」と綿引理事長は言う。

このグループワークを支えたのは、子ども時代に海外で育った、あるいは現在海外留学中や、教育を学んでいる大学生たち。なかには高校生もいた。参加者から見れば少し年上の兄貴・姉貴的な存在で、保護者から見れば我が子の数年後の姿である。事前に研修を受けたファシリテーターたちは日本国内の自宅から、下宿先から、あるいは留学先の大学図書館や学生寮のラウンジから、グループの子どもたちに語りかけた。

「指導役ではなくて、子どもたちの議論を引っ張り上げる役割を」というのが綿引理事長の願いだった。ファシリテーターたちはそれにこたえて、画面上で集まった子どもたちの雰囲気をはぐし、グループワークを盛り上げてくれた。「みなさん、研修のときから頼もしくて、『やってくれるだろう』と感じていました」と山本さんは信頼を寄せていた。

同時に、この経験は学生にとっても得がたいものになったようだ。ファシリテーターのひとりには、「議論の場に行つてその場でやるものがファシリテーションだと思っていたが、実際はその前にどんな場づくりをするのかを準備するのが重要だということがわかった」と語っている。

グループディスカッションは約三



ファシリテーター研修の様子

カ月の長丁場。学校やクラブの予定が入った、急に帰国することになって時間帯が合わなくなった、あるいは興味がそれて遠ざかってしまった参加者もいた。

みんな実際に顔を合わせたこともないし、時差のためにリアルタイムでやり取りできないことも多い。ファシリテーターが体調を崩して、子どもたちだけが予定の時間に集まってしまったこともあった。事務局から斎藤さんが急遽フォローに入ったり、万が一に備えてファシリテーターのスタンバイを頼んだりしたこともあったという。



東京大学大学院情報学環客員教授
辻村清行さんから

最終的には子どもたち、保護者、在外教育施設の先生がた

どの声を集めてしっかりと読み解かないといけません、現時点では皆さんのご努力で非常にうまくいったと思っています。まったく初めての試みで、すべてのイベントが計画通りに実施できたという点でまずは大成功。純粋に喜びたいです。

「世界中の人が健康で幸せに暮らすために、私たちができることを考えよう」というテーマは、とても抽象度の高いものです。子どもたちがそれに挑み、自分が考えたことを仲間とディスカッションし、発表して動画にした。インターネット上に置かれた発表動画は、その場に居合わせなかった人でも視聴することができま

す。これは、物理的に限られた空間である教室の中での発表とはまったく次元の異なる新しい学びの場でしょう。それが実現しました。ファシリテーターの皆さんは、ディスカッションを盛り上げてくれました。通信トラブルなどがあつたとき、子どもたちと助け合うこともあつたようです。みんなが知恵を出

し合つて場をつくるというのは、「答のないことをみんなで考える」ときにとっても必要なことです。

国際社会で議論していくためには、発言内容と言語の二つの要素が、両輪でうまく回らないといけません。その意味では、今回英語チームの存在は貴重だったと思います。自分と同世代の子たちが英語で堂々とディスカッションをしている姿は、他の参加者や国内の子どもたちにとって大きな刺激になったはず

です。ただ、今回は子どもたちのバックグラウンドの違いをぶつけ合う議論にはなりません。自分が夢を持つに至った理由は周りの大人や環境に大きく影響を受けているはずですが、そこから生じる違いがあまり見えてこなかったように思います。Davos Nextは始まったばかりです。もっとブラッシュアップしていくには、参加者一人ひとりの声が重要です。これから育てていくイベントですから、すでにでき上がっているイベントに参加するのとは違う楽しみがあります。皆さんでいっしょにつくっていきましよう。ワクワクする挑戦になると期待しています。

グループワークの進行はファシリテーターに全面的に任せられたので、その力量の違いが出てしまったところもあった。議論が不発に終わったところ、掘り下げが足りなかったりしたグループもある。

運営委員会では「ファシリテーターに依存する部分が大きかった。ディスカッションの流れはもっと事務局がつくるべきだったのでは」という声も出ている。また子どもたちの生活環境の違いを生かした議論が、いま一つ深まらなかったのではないかとという反省もある。世界各地に住んでいる海外子女をつなぐイベントとして、それは当初から大きなねらいの一つでもあったのだから。

2023、そして未来へ

JOES Davos Next 2022は、十二月十八日の交流会で幕を閉じた。

その後、子どもたちが作成した動画を評価するために運営委員が集まった。優秀作品を選ぶはずが、「どれも力作」「優秀をつける必要はないのでは」「これをぜひ見てもらいたい」という作品なら選べるけど」などの声が出て、結局運営委員のお

勧め動画として、予定よりも多い本数が公開されることになった。

そしてJOES Davos Nextは、すでに二〇二三年秋に向けて動きはじめている。次回のテーマは地球環境。環境問題は学校現場でもおなじみで、特に二酸化炭素問題やゴミ問題は定番テーマである。そこで、あえて海にテーマを絞った。地球の約七割は海。その海の環境が悪化したらどうなるか。海洋大国日本の子どもたちは、そこで何を感じ、何を語ってくれるのだろうか。

基調講演は海洋政策研究所所長の阪口秀博士。さらにディスカッションには、アフリカの子どもたちも参加する予定だという。

「きつとここから、将来のアフリカと日本との絆が育っていきますよ」と、綿引理事長は目を輝かせる。

とはいえ、検討課題はたくさんある。グループワークのテーマ設定をどうするか。ディスカッションをもっと質的に向上させるためには何が必要なのか。そして多言語への対応をどうするのか。運営委員会では、その検討がすでに始まっている。

「こういう取り組みを続けていくことが、日本を変化に負けない前向きな国に育てていくと思う」と現職教員として日々中学生に接している



海外子女教育振興財団
綿引宏行理事長から

Davos Next
2022初年度、自己
採点は八十五点です。

た一万人に達したことはもちろんですが、何よりも子どもたちが積極的だったことがうれしいです。山中先生の話を「我がこと」として捉えてディスカッションに取り組み、Discussionという場を十分に活用してくれたと思います。そしてそれを支えてくれたファシリテーターも、運営委員会も、そして事務局も素晴らしいです。満点です。

十五点の減点は私の動きが足りなかった分です。

とが社会貢献にもなるのだということを知って、プレゼンして回りたいかったです。

また、「対象は世界中のすべての子どもたち」と言いましたが、それが届いていなかったところがあつたかもしれません。日本人学校、補習校経由の広報はできましたが、世界各地の商工会などへの働きかけが十分ではなかったと思っています。



仙台市立広瀬中学校研究主任
齋藤暢さん

齋藤暢さんは言う。だからこそもっと国内の教育現場で、Davos Nextを活用してほしいし、そのための仕組みが必要だと訴える。

事務局を務めたJOESの関口さんと齋藤さんから見ると、運営面での課題はさらに多い。今回円滑に行かないこともあった参加者やファシリテーターとのコミュニケーション。土日に集中するデイスカッションで発生するトラブル対応のためには、事務局の勤務スタイルを見直す必要もある

今回のDavos Nextは、さらにチャレンジングなものになりそうだ。「限られた人員でどうやって対応していくかが、たいへんなんですけど」と言いながら、関口

さんはちよつと楽しそうでもある。

やう、最初の間に戻ろう。JOES Davos Nextとは何か。それは、未来を背負う子どもたちのための学びの場。そこで将来、ダボス会議に参加するような人材を育てることを目指している――。

インタビュアの問終始落ちついた口調だった斎藤さんが、この話題になったときだけはちよつと身を乗り出した。

「しっかりした子が多くて、みんな世界の課題をきちんと考えていた。だから、ダボス会議、行けると思います」

隣の関口さんも大きくうなづく。
そして綿引理事長は、満面の笑みだ。
「絶対、大丈夫。行けますよ」

世界中から参加した一万人の子どもたちの心に何かが芽生えていたとしたら。デイスカッションから、自分の将来の姿を考えたとしたら。そしてその夢が、誰かとつながっていくことを実感できた——。

それはきっと未来を変えていく。
いまの大人たちが解決できない課題に、未来世代が立ち向かってくれる。
JOES Davos Next は、壮大な道のりの第一歩を踏み出したばかりだ。

「違い」こそがアイデンティティ

めっちゃ上手になりました(笑)」と紀久子。

フロリダの青空の下、

白い砂浜に櫓を組んで演技したとき観客は水着姿だった。デイズニー・ワールドのインディ・ジョーンズの舞台で演技したことや、デイズニー・ワールドを借り切ってメンバーだけで遊び放題だったこともある。試合のあとにはパーティーもあり、すべてが華やかだった。

アトランタで、杏樹はチアリーディングに将^{しやうや}弥^{あき}は水泳に邁^{まいしん}進する。宣昭と紀久子は全力でそれをサポートし、「アメリカのスポーツ」を楽しんだ。さらに宣昭と紀久子は日本人のコミュニティーでも力を発揮し、「日本」を味わった。国籍や人種にかかわらず、個人として尊重し合うことを、家族で学んだ十年間だった。

取材・文 高田 和子

杏樹のチアリーディング

「アメリカならチアでしょ!」と杏樹は三歳のころから現地のチアリーディングチームに所属した。ミドルスクールに上がってからは学校のチームでも活動した。学校のチームはジョージア州でつねにトップだったので、チームに入るためのトライアウトはとても厳しく、学業も優秀でなくては入れなかった。

試合も多く、アトランタでの地区大会、年に一度のフロリダでの全米大会に加え



チアリーディング (USASF) アメリカ南地区大会CHEER SPORTでジョージア州の3位になったときに 前列左から2番目が杏樹

てほかにもたびたび遠征に出かけた。「フロリダへは車で九時間もかけて行くのですが、夫のスケジュールが合わないとい私が運転するので緊張しました」紀久子は日本ではペーパードライバーだったので、車線が多くてスピードを出す車のなかを走るのには生きた心地がしなかった。

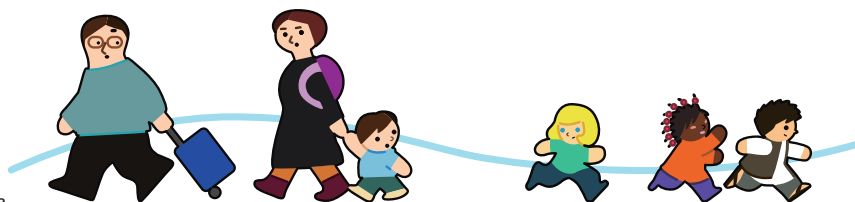
「はじめのうちは『トイレは明るいところ』とか『外で食べるのは抵抗があるの』でおにぎりを持っていく」とかいろいろなことに気を遣いましたが、慣れたら気にならなくなりました。運転もそのうち、

「はじめのうちは『トイレは明るいところ』とか『外で食べるのは抵抗があるの』でおにぎりを持っていく」とかいろいろなことに気を遣いましたが、慣れたら気にならなくなりました。運転もそのうち、

「親の熱の入れようも、ポジション争いも熾^{しち}烈だ。『あの子はリフトで落ちたのにどうして代えないのか』『どうしてうちの子はセンターじゃないのか』などとコーチに直談判し引き下がない。

「どうしてその後決別しないのか不思議なくらいです」と紀久子。挫折もあった。七歳のある日、突然得意なバック転どころか足を一歩踏み出すこともできなくなってしまうのだ。急に湧き出る恐怖心、メンタルブロックだ。その状態は半年ほど続いたが、コーチは「決して焦らず、できることを繰り返してやる」ことで、杏樹に自信を取り戻させ

Illustrated by
Reona Nishinaga





現地校の友人たちと
右からふたり目が将弥

将弥の水泳

た。そして褒め続けてくれた。
「親としてどうしたらいいのかを学ぶ体験になりました。それは『とことん話を聞き、焦らずいつも通りに接し、そしておいしいご飯をつくる！』といったところでしょうか」
復活もある日突然だった。杏樹は、いまでもアメリカでの体験をエッセイにするときに、この「メンタルブロック」から学んだことをたびたび書いている。

将弥は幼いころから日本で泳いでいた。アメリカでも水泳を続け、学校が終わってから筋トレ、陸トレをしてさらに四、五時間泳ぐという毎日だった。

ハイスクールに入ってから学校が始まる前、五時にプールに行き一時間半練習、そのまま学校に行き学校が終わったらまたプールで四、五時間練習した。移動は紀久子の車だ。
「私はおにぎりを用意し、将弥は移動中の車の中や練習の合間に食べていました」

パンでは力がつかないとのことでも、つばらご飯だったが、試合のときの勝負飯は鮭のおにぎりだったそうだ。

将弥は「所属したのがオリンピック選手を多く輩出するチームだったので、SEC（中南部地区の大学のアメリカカンファレンス）をはじめオリンピックや国際大会で使用される、規模や設備がハイレベルなプールで行われる大会に出場しました。幼いころからそのような環境で泳ぐことができたことが大切な経験です」とふり返る。

宣昭と紀久子は子どもたちに「アメリカならではいろいろなスポーツを経験させたい！」と強く思っていた。子どもたちはさまざまなスポーツに取り組んだが最終的に水泳とチャリディングを各自で選んだ。

アメリカのスポーツの指導者はそれぞれの子のレベルに合わせて指導し、さらにそこから上を目指すようチャンスを与え、達成する経験とやりがいも持たせる。優秀な選手に対する学校のサポートも充実していて、それぞれ生徒にチューターがつき、また欠席した場合はオンラインの授業も提供される。

「子どもたちはコーチや仲間を、さらにライバルさえもリスベクトしています。それがスポーツマンシップを育てる基本になっていると思います」と紀久子。

紀久子の「コミュニティ」活動

ある日、紀久子は「日本人の子どもたちをサポートし、かつ日本人が集まれるコミュニティをつくりたい」と言っている人がいる」と聞いた。コンピュータの扱いが得意な紀久子はその女性とついに日本人家族のサポートをするセンターを運営することになった。

「センターは子どもから大人までを対象にしたさまざまなクラスを設立し、どんどん大きくなりました。現地校の現役の先生やリタイアした先生を集めて英語のクラスをつくったりしました」

居住する日本人や駐在員の妻たちのなかには新体操やよさこいのプロもいた。紀久子は書道とそろばんのクラスを担当した。それは赤ちゃんから父親まで楽しめるセンターになった。

「よさこいでは皆で衣装をつくり本格的にやりました。アトラクタで有名にな



親子で踊ったよさこい
(ジョージア州ジャパンフェストにて)



リビングで課題に取り組む
将弥と杏樹

充実した補習校

つてジャパンフェストの大きなステージで踊ったり、テネシー州にも遠征したりして日本の文化を紹介するいろいろなイベントで披露しました。すべて自分たちで考え運営し、とてもよいコミュニケーションセンターになりました」

ふたりが通っていた補習校には、幼稚園から高等部まで約四〇〇人の子どもたちが在籍していた。土曜日の九時から三時までが授業で、三時から五時までは部活もできた。部活は野球、サッカー、バレーボール、剣道などの運動部と、茶道、書道などの文化部がありとても充実していた。親たちもグラウンドでテニスをしてたりして子どもたちの下校時間を待つことができた。

宣昭は補習校の運営委員長、紀久子も運営委員をしていた。運営委員の親同士では、仕事や保護者としてのつき合いとは違う学生時代のような交流ができた。下校後そのまま子どもだけや母親と子どもでどこかの家に泊まりに行ったり、そこでいろいろな話ができただけのも大きな収穫だった。

校舎は、五年生と六年生しか

通わない現地校を全部借りていた。専用の職員室や図書室もあり蔵書も多かった。行事も盛んで、餅つきや「日本流」の運動会も行われていたので、倉庫には、お餅つきの臼と杵、さらに運動会のすべての道具が収納されていた。

「『日本』を体験でき、とても恵まれた補習校だったので近隣の州の子どもたちも来ていました」と紀久子。

アメリカ生活をふり返って

中三で帰国した将弥は帰国生受け入れ校である公立中学校で学んだあと「アメリカに帰る」ことを目標としてIBコースのある高校へ進学した。卒業後は希望通りにアメリカの大学に進学した。

杏樹がアメリカで得たことは「すべてにおいて、自分に自信が持てたこと」だ。しかし帰国後に受け入れ校である公立中学校に転校したが授業がわからず、アトラクタではつねに成績が優秀だっただけに、想像以上につらかったと言う。

高校は帰国子女が多く、チャリディングの強豪校でもある学校に進んだ。



ストーンマウンテンに家族で「来光登山

「経験を生かすことができ、さらに上を目指すことができました」と杏樹。

そして現在は日本の大学で学んでいる。

「いまはアトラクタでしかできなかったことを思いつかないほど、変わらない生活ができています。そう思えるのは、アトラクタにいるときは日本の文化を、

日本に戻ってからはアトラクタでのことを生かせる環境を両親が整えてくれたからだと思います」

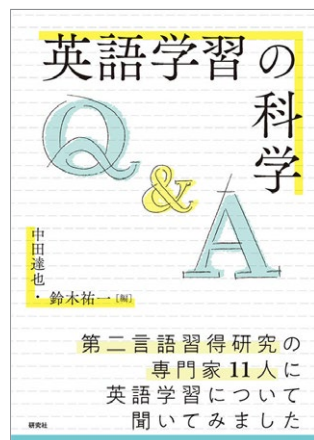
宣昭も紀久子も子どもたちに過度に日本人としての誇りを保持することを強要しなかった。そして、自分を大切にするよう育てた。

「子どもたちは周りの人たちに『違い』を受け入れられ、自分たちもそれを意識することで日本人であることの誇りと自覚を持ったように思います」と宣昭。

将弥と杏樹もまたほかの人たちと自身との「違い」を受け入れ、肌の色、人種、国籍、性別に関係なく多様性を認めて周りと接することができるようになった。

家族にとって、「違い」こそがアイデンティティなのだろう。(終)

本欄では取材対象家族を募集しています。46ページのEメールアドレスへお気軽にご連絡ください。



英語学習の科学

中田達也+鈴木祐一 編著

研究社

税込価格 2,200円

本誌の読者の中には、真剣に英語を勉強してきたけれど期待した程の効果が得られていないという方がいらっしゃると思います。また海外で英語を使って生活する中で、より効果的な英語の学習法を知りたいと思っている方もいらっしゃるでしょう。英語学習で苦勞している人が効果的な英語学習法を教えてほしいと思うのは当然です。

このような方たちの気持ちに応える形で、街には短時間で英語が習得できるようになる学習方法を紹介している本やウェブサイトが溢れています。しかし、残念ながらこれらのものは、英語学習で苦勞している人が飛びつきたくないようなタイトルがついてはいるものの、個人の体験から語られているにすぎない場合が多いのも事実です。中には最近の第

二言語習得の理論に反したものであり、日本とアメリカの大学と大学院で言語学、応用言語学を教えてきた評者などからみると眉を顰めたくするような内容のものもあります。

第二言語習得研究は外国語の習得のメカニズムを明らかにすることを目標に一九七〇年代に生まれた比較的新しい学問分野です。外国語の勉強や教育の方法についての研究をする外国語教育研究とは別物です。しかし両者は近い関係にあるので、第二言語習得のメカニズムがわかれば、外国語学習をどのように行えばより効果的かという問いに科学的に答えることができます。すなわち、第二言語を習得するとき、頭の中で何が起きているかを知るための第二言語習得研究の研究成果を、外国語教育に生かすことができるのです。

ところが現実としては、第二言語習得研究の研究成果は必ずしも一般の英語学習者には伝わっておりません。その理由は、第二言語習得研究の研究成果は学会の研究大会、学術誌や専門書で発表され、一般の学習者の目に触れることはまずないからです。

本書は第二言語習得研究の専門家十一人が英語学習について執筆しています。十一人はいずれも博士の学位保持者で第二言語習得研究の専門家として認知されている学者です。巷に多く見られる科学的根拠が乏しい英語学習本やウェブサイトとは一線を画したものだといえます。しかも内容は第二言語習得研究の予備知識がない読者でも理解できるように、わかりやすく述べられています。

第二言語習得研究は、学際的な研究領域です。本書では、認知心理学の研究で明らかになった科学的な学習法を応用した外国語の効果的な学習法も四つの章で紹介しています。例えば、テストの要素を加えることにより記憶への定着が高まる、あるスキルに特化した学習は、そのスキル自体の向上にはつながるが、他のスキルの向上には転移しない、練習中に適度な負荷をかけ学習を困難にすることで、長期的な習得が促進さ

れる、などです。

英語学習者の多くは、自分の学習経験から「英語学習はこういう方法をすればよい」という思い込みを抱えています。第二言語習得研究の研究成果は、間違った思い込みを修正してくれれます。また、英語学習の効果は、学習者や学習する項目など、実に多くの要因に影響されています。どのような学習者が、どのような項目を、どのように学習するか、またどのように学習効果を測定するかによっても学習効果は左右されるため、英語学習法の過度な一般化は避けなければならぬことを本書は教えてくれます。

評者は、巷に氾濫している英語学習の書籍やウェブサイトの内容の多くに関して、専門家として歯がゆい思いをしてきました。このような状況を打破してくれるのが本書です。第二言語習得研究はまだまだ発展途上の段階で、わかっていないことが多くありますが、それでもこれまでの中で行われた研究の蓄積で、外国語の効果的な学習法に関する知見が明らかになってきています。科学的根拠のある効果的な英語学習法を知りたい方に一読をお勧めしたい一冊です。

(選・評 服部孝彦)

共学

IPU・環太平洋大学 (International Pacific University)

「どこにもない大学」

環太平洋大学は、「これからの時代を担い、社会を築き上げていく力をもった若者の育成に挑む新たな大学へ」という理念のもと、二〇〇七年、岡山市に開学された。目指しているのは「どこにもない大学」。それはどのような学び

の場なのだろうか。副学長兼国際・教養教育センター長の小川正人先生に取材した。

『四年後に責任を持つ教育』をキャッチフレーズに、勉強だけでなく学生の生活や将来についても寄り添っていく面倒見のよさが特色です。この学生と教職員の距離の近さが『どこにもない』ものだと思います』

三学部五学科の 多彩な学び

ベトナム、中国、韓国、ニュージーランドなどから二四〇人以上の留学生が在籍し、提携校のIPUニュージージランドへの留学プログラムも用意されている国際的な雰囲気のもと、学生たちは新しい学びに取り組んでいる。

「体育学部」には「体育学科」と「健康科学科」の二学科がある。

「体育学科」では「スポーツを科学する」という理念を掲げ、本格的スポーツ科学センター【INSPIRE】と連携して身体能力をはかりながら競技力を上げていく。それにより選手たちは記録を伸ばし、さまざまな記録保持者やオリンピック選手を輩出している。「他学科の学生たちは彼らを誇りに思うし世界を身近に感じています」

「健康科学科」では健康とスポ

ーツを医学的側面からサポートすることを学び、国家資格である柔道整復師をはじめさまざまな資格にチャレンジすることができる。

「次世代教育学部」は「こども発達学科」と「教育経営学科」から成り、教育について学ぶだけでなく次世代の子どもたちにそれをどのように伝えるかも学ぶ学部だ。模擬授業を積み重ね、実学教育に力を入れている。

「次世代」という名前がついたのは教育というのは「つないでいく」ことが大切だからです。授業力、知識力だけでなく人間力がいちばん大切です。どれだけ子どもたちと正面からぶつかって話し合えるかを養っていきます」

「こども発達学科」は、二十世紀に受け継ぎたい人間力を育成できる保育・教育者の育成を目指している。

「教育経営学科」ではさまざまな視点から教育を見つめ、「次世代教育」を担う小学校・中学校・高等学校の教員を養成している。

「経済経営学部」の学科は「現代経営学科」が一つ。現代に焦点を当てて学ぶ学科だ。たとえば「どうして給料が上がらないのか」「どうして円安なのか」など身近な事



キャンパス内の道路から



DISCOVERY——非認知能力育成の専門学舎

住所：〒709-0863

岡山市東区瀬戸町観音寺721番地

電話：086-908-0200

URL：https://ipu-japan.ac.jp

最寄駅：JR東岡山駅、瀬戸駅

交通手段：シャトルバス、自家用車、バイク

教員数：常勤127人

非常勤49人

外国人教員7人（常勤）

学生数：次世代教育学部 803人

体育学部 1,534人

経済経営学部 768人

例をとり上げ、それを世界の問題
につなげ、理論を学んでいく。

学生たちがビジネスプランを立
てブランディング事例コンテスト
に出場したこともある。

「大学の周りに出てくる鹿の皮
を使ってカップスリーブをつくり、
中小企業庁長官賞を受賞しまし
た」

地域の課題を解決するだけでな
く学生たちがアイデアを出し合
って商品化し、販売もしている。

「何度でも使えるので環境にもい
いし、イノシシや鹿の出現を『困
ったもの』と捉えるのではなく『命あ
るものをいただいでいく』という
ことでレシピも開発しています」

実際に起業している学生もいる
そう。

非認知能力を育てる

不確実な時代といわれる現在、
学問を積み上げていくだけでは生
きていけない。そこで、考えたり
話し合ったり発信したりする力を
育成するために「ディスカバリー」
という学舎がつくられた。スピー
チコンテスト、プレゼンテーショ
ンコンテスト、ビジネスプランコ
ンテスト、課題体験プロジェクト、
各授業におけるディスカッション、
プレゼンテーション等、多くの発
表の場を用意して、学生のプレゼ
ン力・企画提案力を育てている。
一年生の前期には五学科の学生
がまじって学び、後期は学科ごと
に分かれて学ぶ。さら
に、二年生では自分で
見つけた課題を解決す
る「探究」に発展させる。
「特にSDGsの課
題をそれぞれの学科に
合わせてとり上げてい
ます」

学生の声

経済経営学部のし
んはベトナム出身の四



Uni-Village (男・女寮)

「経営者でもある先生からマー
ケティングのステップを学びまし
た。グループで『ベトナム料理』
というブランドをつくり、国際交
流を兼ねて試食イベントをやりま
した。その際、的確な商業活動
を行うために市
場のなかで適
切なポジショ
ニングをする
にはどのよう
にすればいい
のかを学びま
した」
四月からは
日本の企業で
働く。
福岡の公立
高校から経済

年生だ。留学生別科
で半年間日本語を学
んで本科に入った。
「先生の対応が手
厚いです。コロナの
濃厚接触者になった
とき、ゼミの先生が
買い物をして家まで
届けてくれました」
授業については実
践が学べるのが気に入っている。



IPU ニュージーランド

経営学部に入
学したTさんは留
学システムがあ
るのでこの学校
を選んだ。実際
に一年間、IP
U ニュージーラ
ンドキャンパス
へ留学した。
「この学校は
外国人留学生が
多いのも魅力の
一つです。一つのことに取り組む
ときにその国のことを教えてもら
えます」
三年生から就職支援をしてもら
えることも魅力の一つだそうです。
企業、公務員、教員と三つの分野
で試験対策を学ぶことができる。
「夢に向かって取り組む環境があ
り、自分の中でステップを踏み大
きく成長することができました」
Tさんは公務員コースを受講し、
そのかいあって四月から国家公務
員として仕事に就くことになった。
「高校生のなかにはまだ目標を
持っていない人もいます。
そういう人こそ、この大学に入っ
て将来の夢を見つけてほしいで
す」と結んでくれた。

（取材・文 高田 和子）

二〇二三年九月六日、大阪の自宅から山中伸弥教授が「皆さん、おはようございます。『こんにちば』や『こんにちは』の人もいますね」と世界中の日本人の子どもたちに語りかけてから約三カ月。この間、子どもたちはグループの仲間たちと世界の未来と自分が果たす役割について考え、ディスカッションをしてきました。街がもうすっかりクリスマスの装いになった。JOES Davos Next 2022は、一連のイベントの締めくくりとなるネットワーキングセッション「交流会」を実施しました。（只木良枝）

交流会は世界中の時差を考慮し、オンラインで、日本時間の午前、午後の二回に分けて開催されました。参加者は合計約一〇〇人。グループワークと同じように、希望に応じて英語グループと日本語グループを選べるようになっていきます。名前のルールは、ディスカッションのグループID、自分が呼ばれたハンドルネーム。さらに交流時に使用したい言語の識別コードとしてJやEをつけました。日本語でも英語でもOKの意味で「JE」とする子どもたくさんいます。冒頭で基調講演のファシリテーター

ターを務めたフリーキャスターの桑原りささんが、交流会のグラウンドルールを説明しました。続いて、グループワークの学びをデザインした東京大学大学院情報学環特任助教の山本良太さんから交流の進め方の説明があり、その後、ブレイクアウトルームで七チームに分かれました。各チームの様子をのぞいてみましょう。自己紹介のあとは「私はどこに住んでいるでしょう」「クイズ。『いま〇時ですか？』『そこは暑い？』など、YESかNOかで答えられる質問をするのがルールです。気温や時間、観光地などから当てようとする子どもいれば、地理的に攻略する子ども。デジタル世代は地図アプリの活用もお手の物です。それぞれの端末で地図を確認しつつ、「四つの海に囲まれていますか？」「あれ、三つじゃなかったっけ」などと、楽しくクイズが進みました。後半の交流では、王様・女王様役の人が「あなたの宝物」などと指定したものをメンバーが持ってきて見せ合うゲームのあと、仲間たちとブラッシュアップしてきた自分の夢を共有しました。

ムードメーカーを中心に大いに盛り上がったグループがあった一方で、うまく波に乗れずに沈黙してしまったグループも。そこに山本さんが、「ちょっと質問してもいいかな？」と飛び入り参加。開催中のサッカーのワールドカップの話題を手がかりに、正解にたどり着きました。逆に会話が弾みすぎたあるグループでは、「みんなの発表をやらないといけないかった？」「うわあ、もう時間がないよ！」と、最後の数分で大急ぎで夢の共有をしていました。オンライン上の会議室では、予定時刻になったら容赦なく接続が遮断されます。まだまだ話し足りないという風情でメインセッションに戻ってきた子どもたちを前に、綿引宏行理事長がいさつに立ち、「山中伸弥教授の講演が、皆さんの心にしつかり刻まれていることがよくわかりました。十人いれば夢も十通り。そのみんなの夢がどんどん広がって、つながっていくのを感じています。今後、『つながることの応援』も、私たちJOESのミッションにしていこうと思います。また来年会いましょう」と締めくくりました。

JOES Davos Next 2022

~ GLOBAL STUDENT SUMMIT ~

Davos Next 2022 開催



サブイベント

ネットワーキングセッション
交流会開催



あいうえお順で紹介していきます。



ひろしまけん

広島県

と どう ふ けん
1都1道2府43県
〜め・ぐ・り〜

中国地方にあり、瀬戸内海工業地域を中心に自動車産業や造船業などの工業が発展している一方、瀬戸内海や中国山脈の自然に恵まれ、牡蠣の養殖業やレモンやミカン、ブドウ、イチジクなどの農業も盛んです。県鳥は「アビ」、県花は「モミジ」、県庁所在地は広島市。

なんで、「広島」っていうの？

1589(天正17)年、毛利輝元が広島城築城の際に命名したといわれています。毛利氏の祖先である大江広元の「広」と、戦国時代のこの地の武士だった福島元長の「島」を合わせたという説、あるいは「太田川の広々とした三角州に由来する」など、諸説あります。

さて広島県の形は何に見えるかな？



ブルドッグ？



クイズ

- 広島県ではある食べ物のことを「サンライズ」と呼びます。それは何でしょう？
A アンパン B クリームパン C メロンパン D ドーナツ
- 広島弁で「すごくおいしい」はなんと言うでしょう？
A ばちうまい B ぶちうまい C べちうまい D ぼちうまい

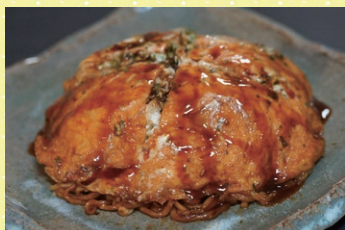
*クイズの答えは奥付(P.46)をご覧ください。



広島の名物料理
を紹介するよ〜

ひろしまふう このや 広島風お好み焼き

生地と具を混ぜ合わせないで
焼き上げます。ソースはたっぷり！



鉄板の上で薄く焼いた小麦粉の生地と大量のキャベツ、もやし、豚肉等の順で載せ、ひっくり返して蒸し焼きにして、別につくった焼きそばと目玉焼きとを合わせて食べる老若男女に人気の郷土料理です。ねっとりした甘口のソースをかけて食べるのが一般的ですが、お好みでマヨネーズをかけたりもします。豚肉以外、牡蠣などの海産物が入ったものも人気です。いまでは日本各地で見かけるようになった広島風お好み焼き。ご飯のおかずにも食べられることも珍しくないとか。



チカラン 日本人学校



チカランのモスク



ジャカルタ市内



校章

Cikarang Japanese School

URL <https://cjs.or.id>

児童生徒数 小=103人 中=21人

インドネシア共和国 チカランに根づいて

インドネシアはアジア南東部にあり東西五一〇キロメートルと非常に長く、一万余千の島々からなる世界最大の島嶼国家である。人口は約二億八〇〇〇万人で世界第四位。東南アジア唯一のG20加盟国で経済の発展が著しい。親日国としても知られている。

チカラン日本人学校(CJS)があるチカラン地域は、首都ジャカルタの東方約六十キロメートルの位置にあり、日本企業も多く進出している。本校はチカラン地域での邦人駐在者の増加を受け、二〇一九年四月に開校した。

開校以来、学校教育目標を「自立と共生の力を身に付け 日本と世界の未来を拓く、心豊かでたくましい子供の育成」とし、国際感覚を兼ね備えた次世代の日本人の素地を育むことに努め



校舎



運動会 南中ソーラン



小学部3年 インドネシア語

選ばれる日本人学校を 目指して

ている。現在児童生徒二二四人を指導している。

本校は開校四年目になるが、二年目と三年目は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、児童生徒数も二十数人まで減少した。残る児童生徒と職員の安全を第一に通常登校を控える時期もあり、分散登校やオンライン授業を進めてきた。

今年度はコロナ感染が落ちつきはじめ、徐々に日常を取り戻している。学校教育目標に基づき、選ばれる在外教育施設として特色ある学校を目指している。

自立と共生を目指した「たてわり活動」

本校は縦割り組織での取り組みを進めている。たてわりハイキング、たてわり遊び、

中学部修学旅行 空港前で



たてわりハイキング

小学部5年 アンクルン練習



中学部 SDGs指導



たてわり遊び

CJSフェスティバルで
和太鼓披露



子どもたちから

みんなが楽しく遊べる学校です。
みどりゆたかなところ

学年関係なく楽しく遊べる学校です。
(小6)

多くの先生方が私のために色々な
ことを教えてくださいました。(中3)

運動会でのたてわり競技等、児童生徒が自ら考え工夫し、学年を超えて共に活動を創り上げるものである。部活動も小学部五年から中学部三年までの縦割り組織で運営している。

日本と世界の未来を拓くために

1、外国語授業(英語・インドネシア語)
英語の授業はもちろん、さらにインドネシア語の授業も小学部一年より行っている。学年別に発達段階に応じて、独自のテキストで展開している。

2、バイリンガル授業(音楽・家庭・体育)
小学部三年から中学部にかけて行っている。英語教師やインドネシア語教師もいっしょに加わりながら、子どもたちが外国語を使用する機会を増やしている。現在三教科のみであるが、授業回数の増加や他教科への展開も視野に入れている。

3、国際理解・現地理解の授業

探究的な見方を養い、現地社会や国際社会を理解するために総合的な学習を工夫している。

中学部ではSDGsをテーマに、教育、環境、貧困を中心テーマに置き、さまざまな課題に生徒自身が主体的に取り組み見識を広げている。また「フィールド学習」と称して現地の施設や学校を訪問し、交流を進めながら学びの視野を広げている。

小学部では、農作物の栽培体験、文化理解として伝統楽器を使った合奏体験や鑑賞、民芸品づくり体験等、インドネシアならではのことに目を向けて授業を展開している。

4、学校行事を通じての国際理解(発表の機会)

行事においても国際理解教育に取り組み、現地理解、国際感覚、日本文化紹介に努めている。

・運動会でのインドネシア体操や日本の踊り・English Day(英語スピーチ、英語での歌や劇の表現会)の実施

・CJSフェスティバルでの地元楽器演奏や和太鼓披露、現地理解発表

・インドネシアで活躍している日本人のかたとの交流会

・修学旅行での文化体験や現地校交流
本校は開校四年目に入り、創設期から成長期に差ししかつてきた。新しいチャレンジに臨む一年である。

(二〇二二年一月現在)

パリ補習授業校



エッフェル塔



パリ日本語補習校

Ecole de Langue Japonaise de Paris

URL <https://parisnihongohoshuko.com>

児童生徒数 小=166人 中=11人

芸術、食の都パリ

首都パリはフランス最大の都市で、政治、経済、文化の中心地である。現在、二〇二四年のオリンピックに向け、準備中だ。

本校はパリの十六区にある。十六区は高級アパルトマンが建ち並び、大使館も多い。凱旋門が近くにあり、エッフェル塔も見える。カフェ、レストラン、おしゃれな店が並び、人の往来も多い。一方でデモ活動の影響も受けやすく、デモによって臨時休校を余儀なくされたこともある。情報の更新がつねに必要であると感じている。

コロナ禍の禁足令中は外出が制限されたが、その後、買い物客や観光客も戻り、にぎわいを取り戻している。パリの美術館には日本の美術の教科書に載っている作品が数多くあり、芸術への造詣を深めるには絶好の場所である。

広場のクリスマスツリー



借用校舎外観

いつの日か母校と呼ばれる学校に

本校は約四十年続いた私立の日本語学校を前身とし、二〇〇六年に在仏日本人会を事務局として開校した。運営委員会など、在仏日本人会のかたがたの支援や協力を得ながら学校運営を進めている。ホームページも二〇一二年に開設した。

小学部一年から中学部まで、全部で二十クラスある。四人の教員は全員が日本での教職経験者である。授業は国語のみで、週一回の七十五分授業。私立の小学校の教室を借りて水曜と土曜の午後に授業を行っている。本校に通う子どもたちは、ふだんは



かるた会



小学部 6年 国語



小学部 3年 国語



小学部 1年 国語



中学部 音読発表会



小学部 4年 音読発表会

現地校やインターナショナルスクール、バ
イリンガルスクールに通っている。フラン
スの小学校は多くの場合水曜日が休みで週
四日制。九月に年度が始まる。

ロックダウン中は学校が閉鎖されて授業
を遠隔で行うことになった。二〇年三月か
らは、教員が授業内容を録音して音声ファ
イルをつくり、学習プリントと共にメー
ルに添付して送っていた。それを各家庭で学
習して、子どもたちが書いたものを写真や
スキャンで送り、教員がそれを添削して返
していた。二〇年九月から平常授業に戻
ったが、十一月から屋内での習い事に許可が
下りなくなり、ふたたび遠隔授業に戻った。
それからオンライン授業をとり入れ、画面
越しではあるが、みんなの顔を見て声を聞
きながら授業ができるようになった。音読
発表会は各クラスの授業のなかでオンライ
ンによる開催となった。他の行事もできな
くなったため、川柳大会やオンライン絵画
展などを保護者主催で行ってもらった。み
んなで工夫し、たいへんな時期をなんとか
乗り越えることができた。

二一年九月からは平常授業となったが、
屋内でのマスク着用は義務だった。コロナ
感染で欠席する子どもたちも相次いだ。フ
ランス政府が定めた規則を遵守しているが、
ときおり変わる規則の確認にふり回される
こともあった。二一年一月にはオミクロン
株が猛威をふるっていたが、規則を守りつ
つ音読発表会を行うことができた。全校で

集まることができず、参観者の人数制限を
して各クラスで開催した。それでも、保護
者が温かく見守り、録画などするなかで日
ごろの学習の成果を見せることができ、満
足のいく行事となった。

子どもたちはバカロレアの外国語として
の日本語試験でもよい成績を収めていたが、
二〇二一年度より新しい形式となり、自主
学習した外国語では受けられなくなった。
本校での学習がバカロレアと結びつかなく
なったが、一生モノの日本語を身につける
ことを目標にこつこつ根気強く学習を続け
ている。いつの日か母校と思ってもらえる
ように、日本語の基礎や文化背景までも本
校でしっかりと身につけてほしい。そのた
めに毎日少しずつ努力を積み重ねることが
大切だと思っている。

(二〇二三年 十二月現在)

子どもたちから

かん字をおぼえるのがじょうずになりま
した。(小2)

先生の教えかたは とても分かり
やすく、こまかくていいです。
音読と漢字も練習ができます。(小4)

ここに 来るのは 楽しいです。
ずっと長い間 補習校に行っていますが、あいがわりが 楽しいです。
友達もたくさん 出来ました。(中学)

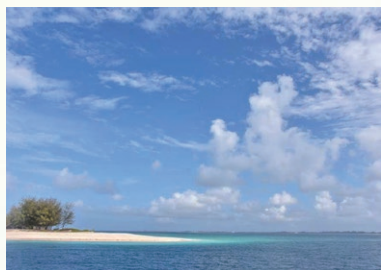
ダルエスサラーム日本語補習校校歌 (ダルエスサラーム補習授業校)

作詞・作曲
聞谷洋子
聞谷恭子

一.
わたしたちは学ぶ 日本を 世界を
わたしたちは学ぶ たがいを 知るため
青い空 白い雲 緑の大地
大きな心 夢を持ち 歩きたい
ダルエスサラーム日本語補習校

二.
わたしたちは学ぶ 日本を 世界を
わたしたちは学ぶ 自分を知るため
光る海 輝く太陽 豊かな大地
未来に向かい 希望持ち 歩きたい
ダルエスサラーム日本語補習校

タップしてダルエスサラーム日本語補習校の
校歌を聞いてみよう
こちらから♪



タンザニアの美しい空と海



タンザニアの雄大な自然に生きる
野生のキリンたち

青い空と海、
豊かな大地から、
世界へ！

本校は世界に四校しかない「準全日制補習授業校」の一つです。子どもたちは月曜から金曜までの毎日、早朝から国際学校等に通い、その後本校に来て、国語と算数を中心に学んでいます。小・中合わせて二十人に満たない小さな学校ですが、昨年一月に創立五十周年という大きな節目を迎えた伝統ある学校です。

校歌は創立三十周年の記念として二〇〇二年につくられました。学校からの依頼で、小学三年生まで本校に在籍したお子さんとそのお母さんが詞と曲をつくり、学校の編曲で完成しました。

お母様からは、「当時のタンザニアは物資が少なく、停電や断水も多くて生活はとても不自由でたいへんでしたが、補習授業校に通う子どもたちは学年に関係なく楽しく遊び、学習していました。休みの日にはみんなで青く美しいインド洋の海岸で遊んだり、野生動物や鳥を見つけない、遠路車を走らせてサファリを回ったり、忙しいなかでも楽しい思い出をいっぱい

つくりました」とお話を伺いました。この校歌も、そんなタンザニアでの生活を思い出しながら、おふたりで作詞作曲されたとのこと

です。
この校歌はたいへん歌いやすく、転入したばかりの子どもたちもすぐに歌っています。

子どもたちに「校歌のなかで好きなことは？」と聞いたところ、いちばん多かったのは「日本を世界を」と「光る海 輝く太陽」で、次に「大きな心 夢を持ち 歩きたい」が続きました。まさに自然豊かなタンザニアの魅力と、本校の子どもたちの心を表わしています。この自然豊かで、心優しい人の多いタンザニアで学び、大きく世界に羽ばたいてほしいと心から願っています。



3学期の始業式で校歌を歌う子どもたち

私も子どもも人づき合いが 苦手で、現地の社会にも 日本人社会にもなじめません。 よくないことでしょうか？

海外子女教育振興財団
教育アドバイザー

清水 賢司



プロフィール（しみず けんじ）
日本へ返還直後の小笠原村母島小・中学校にて教員生活を開始。東京都立中学校長、ラスパルマス日本人学校およびテヘラン日本人学校の校長などを歴任し現職。全国海外子女教育国際理解教育研究協議会幹事、昨年6月より本田技研工業株式会社の専任教育相談アドバイザーを務める。

はじめに

自分が苦手だったりできない
と思っていたりすることがある
と、ずっと気になっているもの
ですが、皆さんにもそのような
ことがありますか。

今回のご相談のかたは、人
のかかわり合いが苦手で人づ
き合いがうまくいかないとずつ

気にされていたのでしょうか。そ
れで現地の社会や日本人社会に
もなじめないと感じられていま
す。

相談の最後に「よくないこと
でしょうか」という問いかけが
あります。短い文ですが、じつ
はこれには重要な意味が含まれ
ているように思います。

（１）行動パターンと性格

皆さんは自分の行動パターン
を持っていることに気づいてい
ますか。

たとえば会議で集まった人同
士で話し合いをするとき、司会
者から「このことについてどう
思いますか」と投げかけられた
とします。そのとき大きく三つ
のタイプに分かれます。

「では、私から意見を述べま
す」とトップバッターを引き受
ける積極的なタイプ、「順番に
話していきましよう」などと提
案してその場を仕切るタイプ、

自分からは話さずに司会者から
指名されるのを待つ受け身なタ
イプです。

多くの人はよほど意識しない
かぎり、どこに行っても同じパ
ターンをとるのではないでしょ
うか。場所が変われば受け身な
人が積極的に発言するようにな
るということはほとんどないよ
うに思います。

（２）外向型性格と 内向型性格

どのパターンの行動をとるか
はそれぞれの性格（パーソナリ
ティー）によるといわれています。
大きく分けて外向型性格と内向
型性格があります。この性格の
違いが人づき合いのスタイルを
左右します。

外向型性格の人はイベントや
パーティーに参加するのが大好
きで、積極的で仲間を求めます。
おおむね聞くよりもしゃべる方
が好きで、積極的に人とのかか

わりを求める傾向があります。

一方、内向型性格の人はひとりでいることを恐れません。音楽を聴きながらコーヒーを飲み、読書をする方が落ちつくなど、強くない刺激を好む傾向があります。

どちらの性格がよいとか悪いとかとはいえませんが、人はこのどちらかの性格を持っているといわれています。そしてこの性格は変えることができないともいわれています。

それは、人がとる行動はその人にとって気持ちよく、落ちつくものに向かうからです。もちろんこの分け方は光のスペクトルのようなもので、光が紫外線から赤外線までの間のどこかに位置するのと同じように人によって違います。

(3)「内気」を乗り越える

人は二つの性格に加えて内気という性質を持っていることが

あります。この「内気」は内向型の人が多く持っています。

「内気」と「内向的」の間には人とかかわりたくないという深い共通点があります。

内気とは他人から非難されたり侮辱を感じたりすることを恐れる性質で、人と話すことを怖がりです。内気な人の多くは不安をもたらず可能性のある社交的なつき合いを避けて人づき合いをしない傾向にあります。当人はこの性質をよいとは思っていないことが多いものです。

今回のご相談は「人づき合いがよい自分」をどこかで後ろめたく思っていないと出てこないものでしょう。

心地よい「いま」を変えることは難しいのですが、内気は自分にとって心地よくなく苦しみのだと感じているかぎり、変えられます。この機会に内向型性格のよさも大切にしながら、「人づき合いがよい」積極的な性格にグレードアップしてはい

かがでしょうか。

自分を変えていくきっかけづくりにお勧めしたいのがダイバーシティ(多様性)に触れることです。

日本国内で生活していると気づかないことに、海外で生活すると気づかされることがたくさんあります。顔の色や話す言語など表面的な違いとともに、考え方や行動様式などその国がえんえんと引き継いできた文化に触れる機会になります。

海外に住んでいることを生かして多様性に触れる場面を利用し、新しい自分へと少しずつ変化させていくことのできる、とてもよい機会です。

「子は親の鏡」といいますが、子どもは親の行動をよく見て学習していきます。「人づき合いが悪い子ども」から「人づき合いがよい子ども」へと育てるために、親が子どもに見本を示すことは、ことばで伝える以上に説得力のある方法です。

(4)学校ボランティアに参加する

まず親が勇気を持って行動を起こすことです。そのための有効な方法の一つが学校のボランティアに参加することです。たとえばアメリカの現地校はボランティアで成り立っていると言っても過言ではありません。英語ができなくてもできるボランティア活動も用意されています。

ある現地校では単発のボランティアとして、校内での子どもたち向け図書の販売や自由研究発表会運営のお手伝い、校外学習への引率補助などのボランティアがあります。

また継続的なボランティアとしては、子どもたちの授業のなかでの本の貸し出し、本の仕分けや保管のお手伝い、学校での災害時に備えた訓練のお手伝いや備品の補充などがあります。これら以外にもさまざまなボラ

ンティア活動があります。

子どもには、英語が十分ではないお母さんがいきいきとボランティアに参加している姿を見て、消極的と思っていたお母さんがまったく違った人格のように映ることでしょう。

子どもは内気だった母親の積極的な姿勢から多くのことを学びます。きっと「私もお母さんのようになりたい」と、子どもも変わっていくでしょう。

現地校では積極性も評価の対象になりますが、積極性の大切さを学んだ子どもは友達との輪も広がり学校生活を楽しく過ごすごうができるようになります。

(5) 日本人会のイベントに親子で参加する

日本人会のイベントにも家族そろって参加してみたいかがでしょう。出席したからといって自分から積極的に話す必要はありません。内向型の性格の人

は「自分から」と思うだけでストレスになり、その場を早く切り上げて帰ろうという気持ちになりがちです。

しかし、内向型の性格の強みを生かして聞き役に回ったらいかがでしょうか。話をすることによって人間関係が広がるとともに新しい知識を吸収できたりします。相手も自分の話を熱心に聞いてくれて、ときどき質問をしてくれるあなたとのコミュニケーションを喜んでくれることでしょう。

あなたも「自分から」というストレスを感じることなく話に花を咲かせることができます。そうなれば、イベントやパーティーに参加するのも楽しみに変わってきます。そして何より、イベントにいつしよに参加した子どももあなたの姿を見て、どのように人と接したらよいかを学んでいくことができます。

終わりに

グローバル社会が到来し、いろいろな考え方や行動をする人々と共存して生きていく時代になりました。生きていくためには、自分の考えを自分なりの方法で相手に伝えられるコミュニケーション力を持つことが必須になります。

人格が立派であれば寡黙でも認められた時代から、人とのつながりを積極的に行うとするコミュニケーション力を身につけなければ認められない時代になったといえるでしょう。

コミュニケーションを取るためには「内気」を乗り越えていくことが必要です。でもその方法は、自分の得意とする内向型人間ができる方法でコミュニケーションを取っていけばよいのです。

内向型の性格を持つ人の強みは、ひとりで深く考える時間や

思索することを好み、慎重に判断して物事を進められることです。この内向型の性格が持つ力を「Power of introverts」といいますが、この力を使って多くの偉業を成し遂げた有名人もたくさんいます。

内向型の性格を変える必要はありませんし、変えることは難しいことです。「人づき合いが苦手」なことは悪いことではありませんが、今回の相談をきっかけに、「工夫して人づき合いできる」積極的な人へと親も子も成長していくてください。



親の質問力を磨く

高取しづか

ことばキャンプとは、7つの力で話す力、聞く力、考える力を育てるトレーニングプログラム

～ 7つの力 ～

度胸力：恐れずに言う 論理力：話を組み立てる

理解力：話を理解する 応答力：受け答える

語彙力：ことばを知る 説得力：理解してもらう

プレゼン力：アピールする

「自立して生き抜ける子に」 <https://ameblo.jp/t-shizuka/>

幸せになれる子に育てたい <https://www.takatori-shizuka.com>

アメリカで暮らすことが決まったとき、友人たちから「子どもたちはバイリンガルになって帰ってくるのね。いいわねえ」と言われました。中学生の子どもたちは、現地校に入り英語のシャワーのなかでがんばりながら、それなりにがんばっていました。言語の習得とは、かくもたいへんなこと！ 応援しつつ見守っていました。

そんななか、日本人の親を対象にした「バイリンガルの

落とし穴」という講習に参加しました。講師から「英語の習得と合わせて、日本語もしっかり補完してください。どっちつかずの「セミリンガル」は深い思考ができないリスクがあります。思考する言語の柱を決めてしっかり伸ばすことが大切です」とアドバイスをいただきました。バイリンガルにそんなリスクがあることを知り、家庭での国語力保持を心がけました。

日本に帰国して、ことばについて研究するようになり、ことばの持つ機能は大きく分けて二つあることを文献で読みました。一つは「人とかかわり合うときのツール」としての機能。私たちは、おもにことばによって、情報や感情を伝達し合います。

そしてもう一つの機能は、「思考のツール」としての役割です。私たちが考えるときには、ことばを使って考えています。意味のシンボルである「ことば」がなければ、考えることができないのです。

「思考する言語をどちらかのことばにするか、決めるこ

と」というアドバイスを思い出して納得したものです。

母語である日本語は自然にできるようならうと考えるのは危険です。大切なのは、子どもが年齢相応の国語力と考える力を身につけること。母語の日本語は、家庭の中でしっかり習得させるのが親の責務だと思います。

ご家庭で、子どもの国語力と考える力を育てるために、親の質問力を磨いていきましよう。絶え間ない親子の会話こそ、子どもの思考のツールとしてのことばを豊かにすることになるのです。

海外での暮らしは子どもにとっても親にとっても、貴重な体験です。日本にいたときとは違うさまざまな視点を持てたことは、子どもの将来へのギフトだったと思っています。

二年間にわたってコラムをお読みくださり、ありがとうございました。

*「ことばキャンプ」の親講座をオンラインで行っています。海外からの参加もOKです。

<https://ameblo.jp/t-shizuka/entry-12693081082.html>

応答力トレーニング

相づちを打ったり質問したり、人の話にこたえる力です。

あいさつできたり「ありがとう」「ごめんなさい」がスナナリ出てきたりすることが、いいコミュニケーションのスタートです。聞かれているのに知らんぷりは、人間関係においてはルール違反です。

△ワーク△

漠然と「どう？」「どうだった？」と質問するのではなく、具体的な答が返ってくる質問をしましょう。

● 学校から帰ってきたら……

× 今日、どうだった？

○ 今日は、何をして遊んだの？

● 遊園地に行ってきた……

× 遊園地、どうだった？

○ どの乗り物が、いちばん楽しかった？

※ ほかにも質問を探してみましょう。

応答力 「おはよう！」
「こんにちは！」と言える





アメリカ・ニュージャージー州生まれ。
非漢字圏出身者で初めて漢字検定一級に合格。

<https://www.facebook.com/BretMayer/>

Four-character Idioms ③

四字熟語 漢検5級

いん が おう ほう
因果応報
cause effect respond repay

Karma

Meaning:

The idea that fate or destiny is determined by past actions

Notes:

因果 is cause and effect. 応 is 'to respond (in kind)' 応える [こた・える]. 報 is 'to repay' 報いる [むく・いる], which can be positive as in recompense and reward, or negative as in retaliate. The phrase originally referred to the Buddhist concept of karma.

そして、強盗中、その泥棒の車が盗まれた！因果応報って面白いね。

And then, during the robbery, the robber's car was stolen! Funny how karma works.

To wrap up our four-character idioms series, here are some ones that include more challenging kanji. These idioms are a great way to condense stories, teachings and complex concepts into a small and simple package. Understanding four-character idioms can greatly aid in your kanji study!

四字熟語 漢検5級

いっ とう りょう だん
一刀両断
one sword pair sever

Clearly and decisively

Meaning:

Making a clear and final decision, for better or worse

Notes:

Literally, make one (swing of the) sword, and sever something in two. Most often used metaphorically to illustrate a momentous decision that took great courage, or perhaps stemmed from a reckless lack of judgement.

犬の飼育は両親が一刀両断に却下しました。

My parents decisively rejected the idea of us owning a dog.

四字熟語 漢検5級

おん こ ち しん
温故知新
warm old knowledge new

Those who ignore the past are doomed to repeat it

Meaning:

Study history and past teachings to obtain new knowledge

Notes:

This is a rare case of 温 (warm), usually describing the temperature of food or the act of warming food, being used metaphorically to mean 'give constant attention' or 'study over and over.'
A phrase introduced in the teachings of Confucius that remains immensely popular among the Japanese even today.

過去の不景気の原因を調べて温故知新で今後の不景気を避けるとしよう。

Let's examine the causes of the previous recession, learn from the past, and avoid a future recession.

I hope everyone has enjoyed exploring the fascinating world of Japanese kanji together over these past few years.

Remember, the key to learning anything is regular and consistent practice.

Whether you have been studying for years, or just began yesterday, the principle is the same:

Set aside a little time every day to learn something new and review what came before.

I wish you all the best of luck on your kanji journey!

中教審のヒアリングで 海外子女教育振興財団の 綿引宏行理事長が提言

一月二十日、中教審（中央教育審議会）の次期教育振興基本計画の策定に向けたヒアリングが行われた。

本財団の綿引理事長は「経済界・在外教育との接点」という立場で具体的な案も示しながら、グローバルな視点から以下の通り提言した。

する人づくり、それを実現させる教育計画をいかに立てるかが求められているのではない。

④ 我が国ならではの教育手法や新たな人材育成を担う教員養成・教員のスキル向上をいかにやるかが鍵になるのではない。

⑤ 在外教育施設だけを見ても、「在外教育施設における教育の振興に関する法律」（二〇二二年六月公布・施行）の理念に基づき、本計画実現に向けた新たな役割を果たす可能性を無限大に有しているものではない。

① 「人づくりは国づくり」と考え「必要な教育政策」をさらに進化させるだけでなく、異次元の「教育政策の大転換」に向けて国民に進むべき方向性を示し、国民的コンセンサスを取る覚悟を表明して論じていくことが不可欠ではない。

② 日本という一国だけでは現在の世界対立構造を解決することはできない。また、我が国だけでは国の成長は担保されないのではない。

③ 今後、世界の国々とのような関係をつくり、対話を重ね、世界の持続性に貢献するか、そうした国家ビジョンを実現

メキシコ日本人学校でオンラインを活用して「世界を旅する音楽室」を開催

一月二十七日、日本メキシコ学院（日本コース）で「世界を旅する音楽室」がオンラインを活用して開催され、同校の小学四年生が参加した。

小学四年生の音楽の教科書に掲載されている「いのちのオーケストラ」の授業を、同歌を作詞作曲した弓削田健介氏が日本からリモートで行い、子どもたちは合唱のほかりコーダーで演奏したり、初めてこの曲を聴いた際の気持ちを表現した絵を紹介したりした。

弓削田氏はそれらの発表を笑顔で称え、「音楽で世界がつながれることがとても嬉しい」と話し、自身の歌声を披露したほか、ピアノで伴奏しながら子どもたちといっしょに同歌を歌い上げた。

合間に行われた質疑応答では、「この曲に対する思いはありますか」「歌やピアノを習いはじめたのはいつですか」などの質問が出され、弓削田氏はその一つ一つにユニモアを交えながら丁寧に答えた。「どうやったらうまく歌えますか」の質問に対しては「一・二・

一・二と、手拍子しながら歌うといいよ。やってみよう！」とアドバイスし、子どもたちはリズムよく手をたたき、上手に歌うことができた。

視聴した人からは「楽しそうに教えられていた弓削田先生の優しい笑顔や生き生きと輝いている子どもたちの様子が印象的だった」「心と時間をつなぐことができる『音楽』の素晴らしさをあらためて感じた。あつと言う間の幸せなひとときだった」などの感想が寄せられた。

海外子女の作品が入賞 第二十六回図書館を使った 調べる学習コンクール審査結果発表

（図書館振興財団）

図書館利用の促進と調べる学習の推進のために「調べる学習部門」「調べる学習指導・支援部門」で行われている。

詳細は図書館振興財団のホームページに掲載されている。

<https://www.toshokan.or.jp/winner-2022/>

海外子女の作品が入賞―

JICA国際協力中学生・
高校生エッセイコンテスト

二〇二二審査結果発表

(青年海外協力協会)

開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会のなかで日本、そして自分たちがどのように行動すべきかを考えることを目的としている。

詳細はJICA地球ひろばのホームページに掲載されている。

https://www.jica.go.jp/hiroba/news/notice/2022/221226_02.html

海外子女の作品が入賞―

第十四回日本語大賞審査結果発表(日本語検定委員会)

日本語の美しさやことばの力を見つめ直すことを趣旨としている。詳細は日本語検定委員会のホームページに掲載されている。

<https://www.nihongokentei.jp>

海外子女の作品が入賞―

第十四回環境教育ポスター
コンクール審査結果発表

(こども教育支援財団)

子どもたちが環境について考え、社会生活のなかでなすべきことを考える機会を持つことで、環境への責任ある行動をとれる態度を育成することを目的としている。

詳細はこども教育支援財団のホームページに掲載されている。

https://kodomo-zaidan.net/ourbusiness/career_path/poster/concours

第五十回全国研究大会開催 (全海研)

全国海外子女教育国際理解教育研究協議会(全海研)は二〇二三年度の全国大会を八月三・四日、東京都府中市にて開催する予定。テーマは「世界と子どもをひらき、つなぎ、つむぐ教育をめざして―ネットワークでつむぐ、明日の教育―」。

詳細・申し込み

<http://www.zenkaiken.jp>

新規ご入会 維持会員

・株式会社JALUX

会員を募集(全海研)

全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会(全海研)では、会員を随時募集しています。

「全海研」は在外教育施設(日本人学校等)派遣経験者で結成した唯一の全国組織です。

各都道府県組織と連携して以下の実践・研究に取り組んでいます。希望者は、どなたでも入会できます。

おもな活動

帰国子女教育の実践的課題の解決、国際理解教育と総合的な学習の単元開発と実践事例集の作成、国際理解教育ワークショップの開催、外国人子女教育の実践的課題の解決とネットワーク化、子どもたちのための日本語フォーラムの開催など。

在外教育施設派遣登録者および内定者研修の企画・運営・協力、講習・研修に必要なテキストの作成、シニア派遣希望者推薦指定団体として派遣期間終了後に国内で活躍されてきた人のなかでシニア派遣希望者を文部科学省に推薦するなど。

会費

【国内会員】4000円(1年間)

【在外会員】1万円(3年未満で帰国した場合は3年間適用)

会員の特典

- ①会報が送付されます。
- ②研究紀要が送付されます。
- ③実践、研究の成果を全国大会や地方ブロック大会、研究紀要、実践事例集で発表できます。
- ④海外・帰国子女教育、国際理解教育、外国人子女教育、日本語教育、補習授業校教育に関するさまざまな情報が提供されます。
- ⑤会報やニューズレターで最新の学会、研究会の情報が提供されます。
- ⑥研究事業、研修事業のプロジェクトに参加できます。
- ⑦シニア派遣希望者を推薦します。

入会申し込み方法等の詳細は全海研のホームページをご覧ください。

問い合わせ先

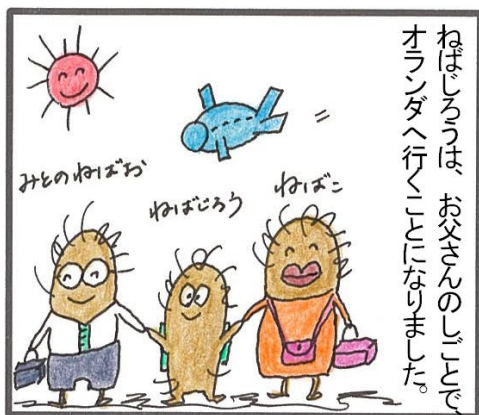
全海研事務局

TEL 03-5696-3358

FAX 03-3804-7432

E-mail info@zenkaiken.jp

URL <http://www.zenkaiken.jp>

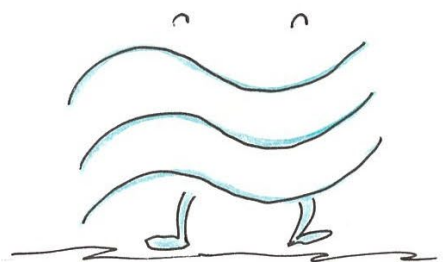


ねばじろうは、お父さんのしごとで
オランダへ行くことになりました。

なっとう ねばじろう オランダへ行く



さあ、いろいろ風にたふ
れんしゃうをしますよ～



ねばじろうには風が見えません。
先生の声が聞こえてきました。



ねばじろうは、
風の学校に
入りました。

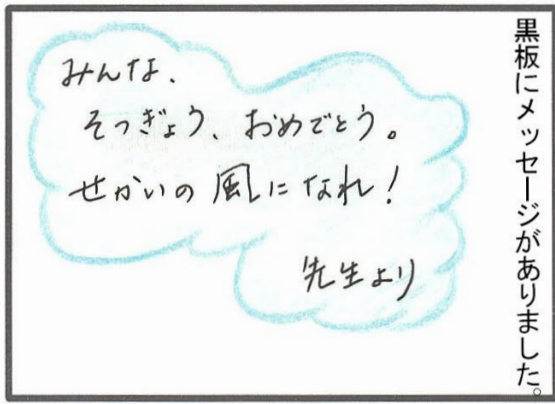
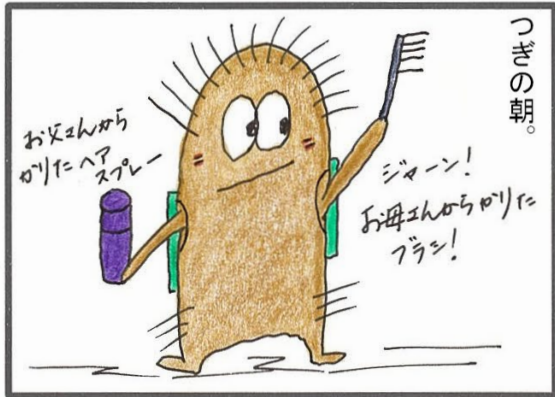
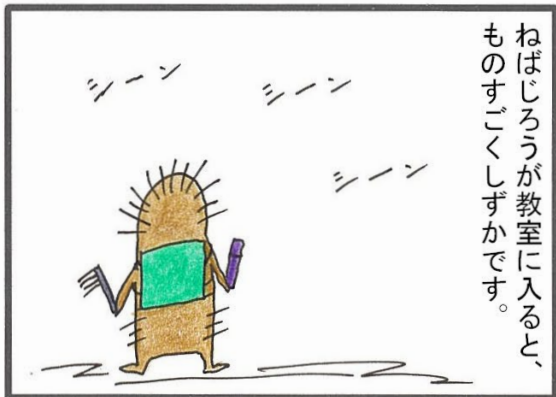
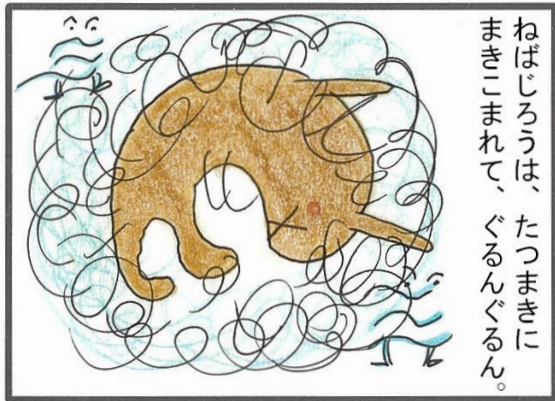
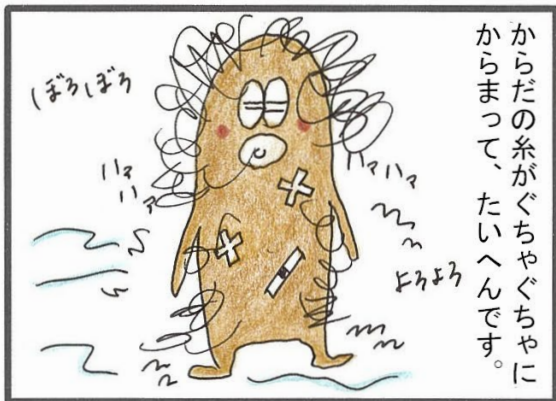
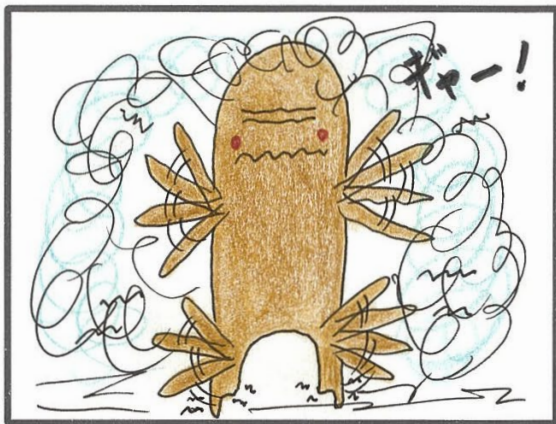


そよ風にたふしてみましょ!



あらしにたふしてみましょ!





二〇二二年度『海外子女教育』

【総目次】

2022年4月号(第590号)〜2023年3月号(第601号)

《今月の顔》

4月号 池島利裕(認定NPO法人ARUN Seed チーフアドバイザー)

5月号 濱田樹里(日本画家、名古屋造形大学教授)

6月号 齋藤美紅(毎日新聞校閲センター主任)

7月号 坂本史郎(Gun ネットワークス株式会社代表取締役)

8月号 木村文(博物館研究者・リトアニア語翻訳家)

9月号 岡勇樹(NPO法人Ubdobe 代表理事/株式会社デジリハ代表取締役)

10月号 長澤 葵(ヘアメイクアップアーティスト)

11月号 田村康剛(ブルームバード東京支店 記者)

12月号 熊谷はるか(マニング熊谷夏(レイモンド)小学校教諭)

3月号 山口翔(株式会社インタールディングス取締役兼CBO)

《特集》

4月号 ①継承語として日本語を学ぶ子どもたち ②日本切手のデザイン

5月号 ①幼児のいる家庭と「新型コロナウイルス」——海外在住家族の二年半から ②和楽器の世界——和の響きを尋ねて

6月号 ①社会に対して声を上げる若者たち ②海外で読むマンガ

7月号 ①帰国生受験体験記 ②平和を考えるミュージアム——いま、私たちができることを

8月号 ①在外校勤務と私——その経験で次のステップへ ②プロカメラマンが伝授する帰国生向け写真術

9月号 ①キコク中学生たちが描く将来の夢 ②「Remember 9.11」 忘れないあの日のこと——21年目の秋に——

10月号 ①現地校に入って ②個性派書店の魅力

11月号 第43回海外子女文芸作品コンクール審査結果発表

12月号 ①日本各地からの帰国生我が校紹介 ②司法通訳の世界

1月号 ①みんなに紹介! 教育アドバイザーの先生たち ②帰国子女OB・OGが語る私の仕事

2月号 ①地方への帰国 ②日本発祥の「点字ブロック」——その歴史と共生社会の未来

3月号 ①世界を広げる翻訳家たち——海外で読む翻訳文学 ②JOES Davos Next 2022とは何だったのか?——記者が見つけた一年半

《連載・家族ノクロスカルチャー》

4・5月号 子どもの人格を大切に

6・7月号 海外生活は楽じゃな

いけれど(アメリカ・リビア・イギリス・カザフスタン)

8・9月号 千の経験も「はじめの一步」から(アメリカ)

10・11月号 「たいへんなこと」も宝物に変えて(タイ・ベルギー)

12・1月号 周りに支えられた「チャレンジャー」の日々/兄妹の「それぞれの道」を支えた幅広い価値観(シンガポール・イギリス)

2・3月号 「違い」こそがアイデンティティ(アメリカ)

《受け入れ校紹介》

《学校会員ファイル》

4月号 愛知中学・高等学校

5月号 育英西中学校・高等学校

6月号 朝日塾中等教育学校

7月号 品川エトワール女子高等学校

8月号 愛知工業大学名電高等学校

9月号 麗澤学院中学校・高等学校

10月号 聖ドミニコ学園中学高等学校

11月号 岩田中学校・高等学校

12月号 インフィニティ国際学院 高等部

1月号 神戸野田高等学校

2月号 日本大学櫻丘高等学校

3月号 IPU・環太平洋大学

《聞いてみよう!子どもの教育》

4月号 オンライン授業も踏まえ、赴任先の学校をどう選べばいいのかアドバイスしてください。(佐々信行)

5月号 子どもは現地校の勉強で手いっぱい、日本の勉強はすっかりおろそかになっています。どうすればいいのでしょうか。(後藤彰夫)

6月号 日本の学校には、親の活動はあるのでしょうか?(奥田修也)

7月号 私は中学生です。多くのことを学びたいのでオンラインスクールに興味を持っています。オンラインで学ぶよさと留意点を教えてください。(菅原光章)

8月号 帰国が決まりました。学校選択において子どもと親で意見が合いません。どうしたらいいのでしょうか。(橋本芳登)

9月号 子どもは漢字を覚えてもすぐに忘れてしまいます。定着させる方法を教えてください。(中村昌子)

10月号 補習授業校に行くのをいやがるようになってきました。どうしたらいいのでしょうか。(中山順二)

11月号 子どもは読書をしてあまり頭にうつらないように、読んだらすぐに忘れてしまいます。どうしたらいいのでしょうか。(後藤彰夫)

12月号 子どもは現地の中学校で

ヤンチャな子どものグループに入っていて、級友をいじめたりもしているようで心配です。(小木曾道子)

1月号 子どもは海外生活が長く、自分は「日本人でもないし、外国人でもない」と言うようになりしました。アイデンティティをどう育めばいいのでしょうか。(三井知子)

2月号 帰国の時期はわかりません。赴任後から帰国まで、どのようなスケジュール感を持つておけばいいのでしょうか。(友部政勝)

3月号 私も子どもも人づき合いが苦手で、現地の社会にも日本人社会にもなじみません。よくないことでしょうか?(清水賢司)

《海外校シリーズ》

4月号 ソウル/クリーブランド補

5月号 クアラルンプール/グアム補

6月号 ニューヨーク/カンパラ補

7月号 リオ・デ・ジャネイロ/香港補

8月号 パナマ/ボルドー補

9月号 アブダビ/ニュルベルグ補

10月号 バルセロナ/アトラタ補

11月号 ローマ/ハートフォード補

12月号 リヤド/ロンドン補

1月号 スラバヤ/ハーグ・ロッテルダム補

2月号 サンパウロ/アクラ補

3月号 チカラノ/パリ補

《BOOKS》

《子どもの本棚》

4月号 (国際子ども文庫の会) はじめまして!近藤薫美

子／こねこのびっちーハンス・フィッシャー／Hello Kitty ぼくとわたしのSDGs／世界のみなさんと2030年を考えよう／谷口彩香／のはらクラブのこともたち／たかどのほうこ

6月号 パパのしごとはわるものですー板橋雅弘／おばあちゃんの時計ージェラルディン・マツ

コーリン／かえるがみえるー松岡享子／青いあいつがやってきた!?ー松井ラフ

8月号 トマトさんー田中清代／3びきのかわいいオカミーユージン・トリビザス／おぼけのもりー石津ちひろ／水の森の秘密こそあどの森の物語②ー岡田淳

10月号 どんぐりのきー亀岡亜希子／モナ・リザをぬすんだのはだれ?ールーシー・ナツ／ひらがなにつきー若一の絵本制作実行委員会／海を見た日ーM・G・ヘネシー

12月号 ふくびきーくすのきしげのり／クリスマス・イブはおおさわぎーエリナ・ヴァルスタ／はつゆめちようじやーこわせたまみ／とびりすてきなクリスマスーリー・キングマン

2月号 おねぼうさんはだあれー片山令子／ばあばにえがおをとどけてあげるーコーリン・アーヴエリス／らいおんレストランーやまぐちりこ／コロキパラン 春を待つ公園でーたかどのほうこ

《オススメの一冊》

※(一)内は選・評者名
5月号 アーサー・マンデヴィルの不合理な冒険 宮田珠己(古家淳)

7月号 13歳からの地政学 カイゾクとの地球儀航海ー田中孝幸(見世千賀子)

9月号 Mini-Forest REVOLUTIONーHannah Lewis(牧野百合)

11月号 複数の言語で生きて死ぬー山本冨里(多田孝志)

1月号 韓国文学の中心にあるものー斎藤真理子(松島あおい)

3月号 英語学習の科学ー中田達也＋鈴木祐一(服部孝彦)

《おもなニュース》

4月号 外務省・文部科学省の二〇二二(令和四)年度海外子女教育等関係予算政府案決まる／就任挨拶(外務省領事局長)

5月号 二〇二二年度新規援助対象校

7月号 在外教育施設における教育の振興に関する法律が成立ー「海外子女教育」の振興が大きく前進ー日本人学校・補習授業校に関するシンポジウム「海外駐在時の子どもの教育最新事情」を開催(大阪府立中之島図書館主催・海外子女教育振興財団共催)

9月号 全海研、第四十九回全国研究大会を福島県で開催／二〇二二年度後期用教科書送付

10月号 就任挨拶(外務省領事局政策課長)

12月号 帰国・外国人児童生徒等の学校での受入れに係る取組について(文部科学省)

禍以前に戻り、さらに大幅減／二〇二二年度海外子女の教科書について

3月号 海外子女の作品が入賞

4月号 二〇二二年度日本人学校等学校採用教員内定者研修を実施／「補習授業校マジきら会議二〇二二」をオンラインで開催

5月号 二〇二二(令和三)年度事業計画と予算が決定／第四十二回海外子女文芸作品コンクール概要／ウクライナ避難民の子どもたち受け入れに関する支援プロジェクトを開始／二〇二二年度「学校説明会」をオンラインで開催／「帰国子女受入コンサルティング」サービスを開始

「JOESオンラインサロン」開催に関するご案内／「会員校掲示板」記事募集

6月号

日本人学校等学校採用教員募集説明会のお知らせ／日本在外企業協会と勉強会を実施／JOES会員校オンラインサロン特別企画「速報 コロナ禍の海外校事情」を実施

7月号 第一回経営アドバイザリーコミッティーを開催

8月号 理事会と評議員会を三年ぶりに対面で開催／帰国生のための国内学校説明会・相談会(オンライン・無料)開催／Instagram公式アカウントを開設

9月号 「維持会員企業・団体フォーラム二〇二二」をオンラインで開催／オンライン講演会「CIEアプローチによる小学校英語授

業の実践」を実施／日本在外企業協会を訪問／日本貿易会を訪問／「帰国生の学校選択と受験対策について」対談を実施／早稲田アカデミーと業務提携／「関西分室」業務体制変更

10月号 「四団体包括連携協力に関する協定」を締結

11月号 第一回「在外教育施設運営委員長／理事長会議」開催／JOES会員校オンラインサロン特別企画「在外教育施設の校長に聞く」開催／「海外学校説明会オンライン」中国・華北地区(北京・天津・青島)開催

12月号 「JOESマイポータル」登録のお願い／四団体包括連携協定締結に係る懇談会を実施／二〇二二年度「BMCN」年次大会のパネルディスカッションで綿引理事長が問題提起／二〇二二年度第二回経営アドバイザリーコミッティーを開催／スタンフォードオンラインハイスク

ール校長の星友啓氏による講演会を実施／「海外人事担当者セミナー」をオンラインで開催／「海外学校説明会オンライン」欧州地区開催／「日本人学校における特別支援教育に関するオンライン合同研修会」を開催

1月号 年頭の挨拶ー本財団会長小林栄三／維持会員一覧／ただいま何人!?ー在外教育施設在籍者数／「日本人学校マジきら会議二〇二二」「学校会員連絡協議会」を開催

2月号 海外で使用する教科書の無償配付について／第四十三回

海外子女文芸作品コンクール作品集「地球に学ぶ」発刊／帰国子女のための学校便覧二〇二三 発売中／JOES窓口を再開／SAPIX YOZEMI GROUPと業務提携／「二〇二三 愛知教育大学附属名古屋小学校実践研究発表会」開催のご案内

3月号 中教審のヒアリングで海外子女教育振興財団の綿引宏行理事長が提言／メキシコ日本人学校でオンラインを活用して「世界を旅する音楽室」を開催／海外子女の作品が入賞

《みんなの広場》
4・6・10月号

《連載・「都」道2府43県めぐり》
4・3月号

《連載・「ことばキャンプ」》
4・3月号

《連載・「KANJIはおもしろい」》
4・3月号

《連載・JOES Davos Next》
4・3月号

《連載・校歌の広場》
4・3月号

《連載・漫画「なごりねばなごり」》
4・3月号

《連載・挑戦! にほんの日本語検定》
4・6・8・10・12・2月号(日本語検定委員会)

編集後記

❖「ランドセルじゃん、どうしたの？」
「中学に行ったら、もう使えないからさ」、どうやら違う鞆で登校していたが、卒業を前にランドセルに戻したようだ。お喋りしながら歩いていく二人。一人はピンク、もう一人は茶色。私の頃は、赤と黒しかなかったなあ。(松)

❖大寒のころから寝るときに湯たんぽを使いはじめたら、立春を過ぎてても手放せない。なにしろ寝付きがよくなり、体調まで改善したような気がする。暖房の電気代は節約。お湯を沸かすガス代+水道代の方が安い？残り湯は翌日、顔を洗うのに使う。(淳)

❖20年ほど前、サン＝テグジュペリ作“Le Petit Prince”の日本語訳が相次いで刊行されたことがある。当時いくつかを読んだが、自分の中では、長く版を重ねていた内藤濯^{あろう}訳『星の王子さま』の優位は変わらなかった。ただ、新しい訳文の中にも捨てがたい表現があり、翻訳の面白さを感じた。(島)

4月号「特集」の予定は…

- 帰国生と外国語力
- 海外在住 整理整頓アドバイザー

2023年3月号 No.601

発行 2023年3月1日

定価 本体700円+税

発行人 綿引 宏行

編集人 島田 誠一

公益財団法人

発行所 海外子女教育振興財団

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-4
愛宕東洋ビル6階

制作協力 Roots International

(株)東京美術

※無断での改変・再販を禁ず。

※本誌購読料は、財団維持会員の場合は会費に含まれます。

■ 投稿募集ほか ■

本誌への投稿や関連情報の提供を随時受けつけています。

お名前とご連絡先を明記のうえ、「月刊『海外子女教育』編集部」宛てとして、E-mail、FAX、郵便のいずれかでお送りください。

◎海外・帰国子女教育、国際教育関連の論文やエッセイ、研究レポート

◎海外・帰国子女教育、国際教育関係の研究発表会などの催しのご案内

◎連載「家族／クロスカルチャー」取材対象家族を募集しています。

海外生活にまつわるご家族のエピソードをお聞かせください。

◎「みんなの広場」タイトル文字、作文・詩・短歌・俳句、習字・イラストなど。

大人のかたの投稿（1200字以内）も大歓迎です。

※掲載・不掲載にかかわらず、作品は返却いたしませんので、ご了承ください。

※掲載作品に関する著作権は本財団に帰属することとします。

※二重投稿はご遠慮ください。

※お知らせいただいた個人情報、作品掲載以外の目的では利用しません。



❖財団の横に鎮座する愛宕山は江戸時代の観光名所。春は花見、秋は月見、冬は雪見。何よりも海を眺めるには最高の場所だった。賑わう人々と海を描いた愛宕山の名所絵がいくつも残る。しかしいまはこんな感じ。ビルに遮られて海は見えない。埋め立てで海岸線も遠くなった。それでも希に潮の香りが漂ってくる日がある。そんなときは当時の賑わいを思い、ついここに来てしまう。(然)

1都1道2府43県めぐり クイズ解答

① C ② B

本誌へのご意見・ご感想をお待ちしております。

海外子女教育振興財団 月刊『海外子女教育』編集部

● E-mail kikanshi@joes.or.jp

● TEL 03-4330-1350 / FAX 03-4330-1355

● URL <https://www.joes.or.jp>

【国内購読料】 1カ月770円：1年間9,240円
※バックナンバーの販売もしています。

【海外購読料】 1カ月950円～1,050円：1年間11,400円～12,600円

★ ユニヴァプレス

<https://univpressnews.com/>



東大合格者速報でおなじみの
大学通信が発信する学校情報。
わりと真面目に教育と学校と
その他の情報について
発信しています。

WEB限定記事

- 生徒が主体的につくりあげる駒場
東邦の学校行事修学旅行先はプレ
ゼン大会を通じて自分で決める！
- 日本一「面倒見の良い」女子大
学、岐阜女子大学に行ってみた！
- 「福祉」ってなんだろう？
東北福祉大学で聞いてみた。
- 専門家に聞いた！
理学療法士ってどんな仕事？

...etc



学 び を 未 来 へ
大学通信

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-2-3
TEL.03-3515-3591(代表) FAX.03-3515-3558
<https://univ-online.com/>

大学通信の情報力を集結した

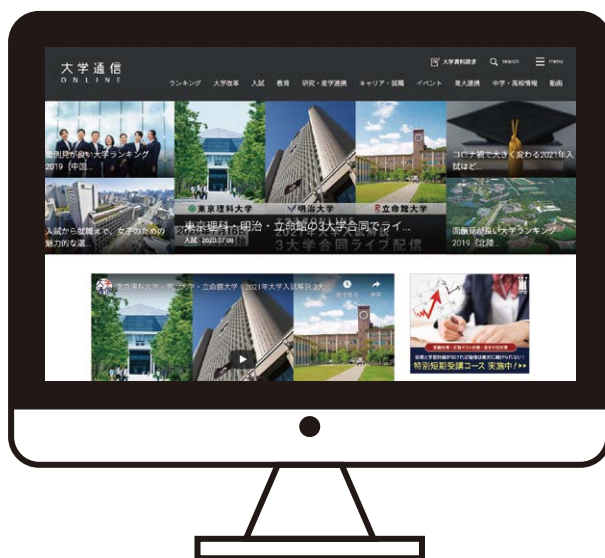
大学通信

O N L I N E

<https://univ-online.com/>

受験シーズンの話題を独占する「高校別大学合格者数」情報をはじめ、大学入試・進学に関する最新データやトピックスを

いち早く公開!



学 び を 未 来 へ

大学通信

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-2-3

TEL.03-3515-3591(代表) FAX.03-3515-3558

<https://univ-online.com/>